

令和6年度

講義概要

(シラバス)

長野県福祉大学校
保育学科

令和6年度 保育学科 講義概要(シラバス)

目 次

| | | | |
|-------------|-----|--------------|-----|
| 外国語 | … 1 | 音楽表現 I | …33 |
| 体育 | … 3 | 造形表現 | …34 |
| 文学 | … 5 | 言語表現 | …35 |
| 社会学 | … 6 | 乳児保育 I | …36 |
| 日本国憲法 | … 7 | 乳児保育 II | …37 |
| 情報処理 | … 8 | 子どもの健康と安全 | …38 |
| キャリア形成 | … 9 | 障がい児保育 | …39 |
| 地域実践演習 | …10 | 社会的養護 II | …41 |
| 保育原理 I | …11 | 子育て支援 | …42 |
| 保育原理 II | …12 | 保育実習 I (保育所) | …43 |
| 教育原理 | …13 | 保育実習 I (施設) | …44 |
| 子ども家庭福祉 | …14 | 保育実習指導 I | …45 |
| 社会福祉 | …15 | 保育総合演習 | …47 |
| 子ども家庭支援論 | …16 | 福祉従事者論 | …49 |
| 社会的養護 I | …17 | 臨床心理学 | …50 |
| 保育者論 | …18 | 表現 II | …52 |
| 保育の心理学 | …19 | 身体表現 II | …53 |
| 子ども家庭支援の心理学 | …20 | 音楽表現 II | …54 |
| 子どもの理解と援助 | …21 | 音楽表現 III | …56 |
| 子どもの保健 | …22 | 音楽表現 IV | …58 |
| 子どもの食と栄養 | …23 | 保育実践演習 | …60 |
| 保育の計画と評価 | …25 | 保育実習 II | …61 |
| 保育内容総論 | …26 | 保育実習 III | …62 |
| 健康 | …27 | 保育実習指導 II | …63 |
| 人間関係 | …28 | 保育実習指導 III | …64 |
| 環境 | …29 | | |
| 言葉 | …30 | | |
| 表現 I | …31 | | |
| 身体表現 I | …32 | | |

| 教科目名 | 単位数 | 総時間数 | 授業形態 | 必修・選択別 | 開講学年 | 開講時期 | 担当講師名 |
|------|-----|------|------|--------|------|------|--------|
| 外国語 | 2 | 60 | 演習 | 必修 | 1 | 通年 | 有賀メアリー |

【授業の概要】

子供、保護者、保育者の間でよく起こる状況や出来事に基づいた英語での会話や語彙の練習をペアワークやグループワークでコミュニケーションスキルを習得します。さらに、Duolingo、Youtubeなどのサイトを通し、英語のインプットを(なるべく楽しく)補います。授業では毎回あてますので積極的な参加が求められます。

【学習到達目標】

- 1 保育所で使う可能性が高い英語表現を身につける。
- 2 英語と異文化の理解を通して、日本語や日本文化の理解を深める。
- 3 自身の英語力を理解し、さらなる高みにもっていくようにする。

【成績評価方法】

- 1 筆記試験や課題、発表等
- 2 表現能力
- 3 授業態度・授業出欠席

【テキスト(教科書)・参考図書】

- 1 テキスト(教科書)
赤松直子・久富陽子『保育のChildcare English 英会話』(萌文書林)
- 2 参考図書

【実務経験】

なし

| | 回数 | 授業内容 | 各授業のねらい | 備考 |
|------------------|----|-------------------------------------|--------------------------|----|
| | | | | |
| 教 育 内 容 | 1 | 授業内容、授業計画の説明 Unit 1: 保育の英会話への第一歩 | 授業の目標・理解 基礎的な質問、答え、語彙 | |
| | 2 | Unit 1: 保育の英会話への第一歩 | 英語での自己紹介 設備の名前 | |
| | 3 | Unit 2: みなと保育園にようこそ | 挨拶、家族について | |
| | 4 | Unit 2: みなと保育園にようこそ | 保育室について | |
| | 5 | Unit 3: 時間と数 | 時間、数字 | |
| | 6 | Unit 3: 時間と数 | 持ち物について | |
| | 7 | Unit 4: 地図と道案内 | 道案内の練習 | |
| | 8 | Unit 4: 地図と道案内 | 外国の保護者の感想 | |
| | 9 | Unit 5: クラスメイトとの出会い | 遊びにまつわる表現 | |
| | 10 | Unit 5: クラスメイトとの出会い | 同上 | |
| | 11 | Unit 6: デイヴイーの登園と降園 | 保護者と子供についての会話 | |
| | 12 | Unit 6: デイヴイーの登園と降園 | 日常生活の話 | |
| | 13 | Unit 7: 保育者の仕事 | 保育のアクティビティについて | |
| | 14 | Unit 7: 保育者の仕事 | 同上、折り紙 | |
| | 15 | 前期のまとめ | 前期の復習 | |

| | | | | |
|------------------|----|------------------|-------------|--|
| 教 育 内 容 | 16 | Unit 8: 昼食 | 食事、食べ物について | |
| | 17 | Unit 8: 昼食 | 同上 | |
| | 18 | Unit 9: 排泄について | 排泄に関する会話 | |
| | 19 | Unit 9: 排泄について | 連絡帳に関して | |
| | 20 | Unit 10: 喧嘩 | 喧嘩、仲直りについて | |
| | 21 | Unit 10: 喧嘩 | 命令形の練習 | |
| | 22 | Unit 11: けがと病気 | 怪我について | |
| | 23 | Unit 11: けがと病気 | 病気について | |
| | 24 | Unit 12: 電話での対応 | 電話の受け方、掛け方 | |
| | 25 | Unit 12: 電話での対応 | 伝言の受け取り方 | |
| 内 容 | 26 | Unit 13: 遠足 | 遠足に関する連絡の仕方 | |
| | 27 | Unit 13: 遠足 | 年間行事について | |
| | 28 | Unit 14: 赤ちゃんのケア | 赤ちゃんとのやり取り | |
| | 29 | Unit 14: 赤ちゃんのケア | 母子手帳について | |
| | 30 | まとめ | 総まとめ | |

| 教科目名 | 単位数 | 総時間数 | 授業形態 | 必修・選択別 | 開講学年 | 開講時期 | 担当講師名 |
|------|-----|------|----------|--------|------|------|-------|
| 体育 | 2 | 60 | 講義 実技 | 必修 | 1 | 通年 | 白金 俊二 |

【授業の概要】
 実技を主体とする。幼児体育やスポーツ文化について理解を深めるための演習や講義も数回含む。

【学習到達目標】
 1 自身の健康や体力に関心を持ち、健康や体力の保持増進に主体的に取り組める
 2 保育実践において必要な身体活動に関する知識や技能を習得する
 3 生涯にわたって運動やスポーツに親しむ資質や能力を身に付ける

【成績評価方法】
 1 取り組みの態度
 2 運動の技能、運動の理解(技能の自己評価、記述内容)
 3 健康、体育理論の理解(記述内容)

【テキスト(教科書)・参考図書】
 1 テキスト(教科書)
 運動遊びのアイデアBOOK(ほおずき書店)
 2 参考図書

【実務経験】
 長野県内の公立小学校・中学校に26年間勤務

| | 回数 | 授業内容 | 各授業のねらい | 備考 |
|------------------|----|--------------------------|---------------------------------------|--------------|
| 教 育 内 容 | 1 | オリエンテーション | 授業の目的・進め方等の確認をする | 講義 |
| | 2 | コーディネーション運動① | 各運動は脳がコントロールしていることに気づき、運動を理解する | |
| | 3 | コーディネーション運動② | 各運動は脳がコントロールしていることに気づき、運動を理解する | |
| | 4 | いろいろな鬼遊び① | 伝統的な鬼遊びやルールを工夫した鬼遊びを体験するなどして理解する | |
| | 5 | いろいろな鬼遊び② | 伝統的な鬼遊びやルールを工夫した鬼遊びを体験するなどして理解する | |
| | 6 | 鬼遊び作りと実践① | 体験した鬼遊びを参考にグループごとに鬼遊びを創作し発表する | |
| | 7 | 鬼遊び作りと実践② | 体験した鬼遊びを参考にグループごとに鬼遊びを創作し発表する | |
| | 8 | 体力測定① | 現在の自分の体力について知る | |
| | 9 | 体力測定② | 現在の自分の体力について知る | |
| | 10 | 現代の子どもの健康課題(体力・運動能力)について | 自分の体力についてまとめ、現代の子どもの体力や運動能力について知る | 講義 レポート提出 |
| | 11 | レクリエーションゲーム | 様々なレクリエーションゲームを知る | |
| | 12 | 伝統的な遊びと短縄跳び① | けん玉や竹馬などの遊び方を知る 様々な短縄跳びの跳び方を理解する | |
| | 13 | 伝統的な遊びと短縄跳び② | けん玉や竹馬などの遊び方を知る 様々な短縄跳びの跳び方を理解する | |
| | 14 | 大縄跳びとダブルダッチ | 大縄の縄の回る向きによる跳び方の違い等を理解し、ダブルダッチの跳び方を知る | |
| | 15 | 幼児の運動遊びの支援の方法や課題について | 幼児の運動遊びの支援の方向性について学ぶ | 講義 レポート提出 |

| | 回数 | 授業内容 | 各授業のねらい | 備考 |
|---|----|-----------------------|---------------------------------------|--------------|
| 教 | 16 | 器械運動(マット・鉄棒・跳び箱遊び)① | 器械での運動の基礎技能を確かめる | 講義 |
| | 17 | 器械運動(マット・鉄棒・跳び箱遊び)② | 器械での運動の基礎技能を確かめ、子どもへの支援の仕方を理解する | |
| | 18 | ボールを使った運動遊び① | ボールを使ったコーディネーション運動や様々なボールゲームを理解する | |
| 育 | 19 | ボールを使った運動遊び② | ボールを使ったコーディネーション運動や様々なボールゲームを理解する | |
| | 20 | ボールを使った運動遊び③ | 様々なボールゲームを理解する | |
| | 21 | 現代の子どもの健康課題(生活習慣)について | 現代の子どもの生活習慣についての諸課題について知り、自身についても振り返る | 講義 レポート提出 |
| 内 | 22 | ネット型の球技(バドミントン・卓球) | ルールや行い方を知り主としてダブルスの行い方を理解する | |
| | 23 | ネット型の球技(バドミントン・卓球) | ルールや行い方を知り主としてダブルスの行い方を理解する | |
| | 24 | ネット型の球技(バレーボール) | リーグ戦などを通してルールやボールの扱い方を理解する | |
| | 25 | ネット型の球技(バレーボール) | リーグ戦などを通してルールやボールの扱い方を理解する | |
| | 26 | ベースボール型の球技(ティーボール等) | ベースボール型のゲームの教材化について知る | 講義 |
| 容 | 27 | ベースボール型の球技(ティーボール等) | ベースボール型のゲームの教材化について知る | |
| | 28 | ゴール型の球技(フロアホッケー等) | ゴールを目指すゲームの教材化について知る | |
| | 29 | ゴール型の球技(フロアホッケー等) | ゴールを目指すゲームの教材化について知る | |
| | 30 | まとめ | 生涯にわたって運動やスポーツを楽しむ意義について理解する | 講義 レポート提出 |

| 教科目名 | 単位数 | 総時間数 | 授業形態 | 必修・選択別 | 開講学年 | 開講時期 | 担当講師名 |
|------|-----|------|------|--------|------|------|-------|
| 文学 | 2 | 30 | 講義 | 選択 | 1 | 前期 | 松岡 幸司 |

【授業の概要】
 読書という行為は一種のコミュニケーション行為である。そして作品を通しての「自己理解」は、作品という「他者の理解」と連動している。自己理解と他者理解の連動は、コミュニケーションにおける独りよがりな理解を避ける上でも重要な要素である。作品（＝他者）を根気よく理解する読書というコミュニケーションの形式を知ることで、保育の場における他者理解に役立てる方法を習得する。

【学習到達目標】
 自己理解と他者理解で一番困るのは「わかったつもり」である。頭の中で「わかった」と思っても、実は「わかっていない」ことが多い。そこで本講義では自分の理解を「書いて確認する」作業を重視する。毎回の講義の最後に、その回の授業の「ふりかえり」を書くことで自分の理解を確認するとともに、レポートの作成においても自己理解と他者理解の確認を行う。そのような作業を通して、「自分の理解を書いて伝えることができるようになる」が本講義の到達目標である。

【成績評価方法】
 1. 毎回の「ふりかえり」課題: 授業内容をふりかえりつつ、自分の理解度を確認し、成績評価の要素とする。(30%)
 2. 小レポート課題: 第4回(授業内容の確認)と第10回(授業で扱った作品の理解)の講義後に出题する。(20%×2)
 3. 期末レポート課題: 自分にとっての名作を題材に、自分の理解を書いて伝える能力の獲得度を評価する。(30%)

【テキスト(教科書)・参考図書】
 1 テキスト(教科書)
 宮澤賢治『セロ弾きのゴーシュ』(角川文庫)
 2 参考図書

【実務経験】
 なし

| | 回数 | 授業内容 | 各授業のねらい | 備考 |
|----|------------------|--------------------|---|----------------------------|
| | 教 育 内 容 | 1 | 「文学」というあいまいな言葉 | 「文学」というあいまいな概念についての理解を深める。 |
| 2 | | 「読書」という行為 | 「読書」という行為の持つ意味について理解を深める。 | |
| 3 | | 読書における自己理解と他者理解 | 読書における自己理解と他者理解について考える。 | |
| 4 | | 書くということ(1) | 自分にとっての名作に関する自己理解と他者理解について考え、レポートに備える。 | 小レポート(1) 出題 |
| 5 | | 文学の世界 | 文学作品に関わる、あるいは含まれる要素について理解を深める。 | |
| 6 | | 宮澤賢治の世界 | 宮澤賢治の人生とその背景について理解を深める。 | |
| 7 | | 「やまなし」を読む | | |
| 8 | | 「雪渡り」を読む | 宮澤賢治の童話作品を読む。自分の感想を大切にしつつ、他の読み方を知り、自己理解と他者理解の方法について考える。 | |
| 9 | | 「オツベルと象」を読む | | |
| 10 | | 書くということ(2) | ここまで授業をふりかえり、確認しつつレポートに備える。 | 小レポート(2) 出題 |
| 11 | | 「グスコーブドリの伝記」を読む(1) | | |
| 12 | | 「グスコーブドリの伝記」を読む(2) | 宮澤賢治の童話作品を読む。自分の感想を大切にしつつ、他の読み方を知り、自己理解と他者理解の方法について考える。 | |
| 13 | | 「セロ弾きのゴーシュ」を読む(1) | | |
| 14 | | 「セロ弾きのゴーシュ」を読む(2) | | |
| 15 | | 書くということ(3) | ここまで授業をふりかえり、確認しつつレポートに備える。 | 期末レポート 出題 |

| | | | | | | | |
|------|-----|------|------|--------|------|------|-------|
| 教科目名 | 単位数 | 総時間数 | 授業形態 | 必修・選択別 | 開講学年 | 開講時期 | 担当講師名 |
| 社会学 | 2 | 30 | 講義 | 選択 | 1 | 前期 | 大羽 伸弥 |

【授業の概要】
 地域福祉、ボランティア、障がいなどの分野から社会について考える。フィールドワークでは地域に拠点を置いて活動する団体等から、地域が抱える課題や目指すビジョンについて学ぶ。

【学習到達目標】
 授業を通じて「問題を発見する力」「多様性を理解する力」「伝える力」を身につけるとともに、自分自身の考え方・行動や社会の動きを福祉的視点から捉えることができる。また将来福祉領域での活躍を目指すうえで、地域福祉、障がい福祉、ボランティアなどの切り口からもアプローチし、各々の福祉観を形成する。

【成績評価方法】
 1 小テストの結果(10点×5回=50点)
 2 期末テストの結果(50点)

【テキスト(教科書)・参考図書】
 1 テキスト(教科書)
 講師制作プリント使用
 2 参考図書
 随時提示

【実務経験】
 諏訪市社会福祉協議会 地域活動専門員

| | 回数 | 授業内容 | 各授業のねらい | 備考 |
|---|----|-----------------|--|-----------|
| 教 | 1 | オリエンテーション | 広範な領域をもつ社会学の概要を捉え、本科目における学びの共通理解を図る。 | プロジェクター使用 |
| | 2 | 社会について、社会学とは何か① | 社会とは何か。社会学とは何か。全体社会学についてを考える。 | プロジェクター使用 |
| | 3 | 社会について、社会学とは何か① | 社会とは何か。社会学とは何か。時事問題を取り入れながら、地域共生社会の理念や地域づくりについて考える。 | プロジェクター使用 |
| | 4 | ボランティアの基礎① | ボランティアの基本的理解を深める。 | プロジェクター使用 |
| | 5 | ボランティアの基礎② | 災害時におけるボランティアの役割を学ぶとともに、災害支援を福祉の視点で捉える。 | プロジェクター使用 |
| | 6 | ボランティアの基礎③ | 過去の災害の教訓から日頃からの地域のつながりの重要性を学ぶ。 | プロジェクター使用 |
| | 7 | 社会調査 | 社会調査の意義や手法について学ぶ。 | プロジェクター使用 |
| | 8 | フィールドワークに向けて | フィールドワークに向けての事前準備を行う。 | プロジェクター使用 |
| 内 | 9 | フィールドワーク① | 福祉大周辺に拠点のある地域活動団体を訪問し、各団体の活動理念や目的を通して地域にある課題を捉える視点を持つ。 3か所⇒3グループに分かれて実施 | 校外学習 |
| | 10 | フィールドワーク② | | 校外学習 |
| | 11 | フィールドワーク③ | | 校外学習 |
| 容 | 12 | 多様性を理解する① | 社会は様々なプロフィールや価値観をもつ人たちで成り立っていることを理解する。 | プロジェクター使用 |
| | 13 | 多様性を理解する② | 障害について理解を深めるとともに、社会の側にある障害を見つける視点を持つ。 | プロジェクター使用 |
| | 14 | 多様性を理解する③ | ボッチャ体験を通じて、ノーマライゼーションの考え方に触れる。 | プロジェクター使用 |
| | 15 | まとめ | これまでの授業の理解度を図る。 | |

| 教科目名 | 単位数 | 総時間数 | 授業形態 | 必修・選択別 | 開講学年 | 開講時期 | 担当講師名 |
|-------|-----|------|------|--------|------|------|-------|
| 日本国憲法 | 2 | 30 | 講義 | 必修 | 1 | 前期 | 山田 直哉 |

【授業の概要】
 憲法の基本的な考え方など憲法の理解を前提に、法の基本的考え方を習得する。また保育者として知っておくべき法律について学ぶ。講義やグループワークを通じて理解を深めていく。

【学習到達目標】
 法についての基本的理解を深め、法的問題について議論する能力を養う。

【成績評価方法】
 試験、レポート、出席数の評価による。

【テキスト(教科書)・参考図書】
 1 テキスト(教科書)
 2 参考図書
 ポケット六法(有斐閣)

【実務経験】
 弁護士

| | 回数 | 授業内容 | 各授業のねらい | 備考 |
|----|------------------|--------------------|---------------------------|--------------------|
| | 教 育 内 容 | 1 | オリエンテーション | 法についての基本的考え方を理解する。 |
| 2 | | 憲法講義(人権) | 憲法の基本的考え方を理解する。 | |
| 3 | | 同上(人権) | 同上 | |
| 4 | | 同上(統治機構) | 同上 | |
| 5 | | 民事法講義(民法・商法・民事訴訟法) | 民事法の基本的考え方を理解する。 | |
| 6 | | 同上 | 同上 | |
| 7 | | 同上 | 同上 | |
| 8 | | 同上 | 同上 | |
| 9 | | ルール作りの実習 | 法についての基本的考え方を理解する。 | |
| 10 | | 高齢者の権利擁護に関する講義 | 高齢者の権利擁護に関する法的問題について理解する。 | |
| 11 | | 刑事法講義(刑法、刑事訴訟法) | 刑事法の基本的考え方を理解する。 | |
| 12 | | 同上 | 同上 | |
| 13 | | 同上 | 同上 | |
| 14 | | 子どもの人権に関する講義 | 子どもの人権に関する法的問題について理解する。 | |
| 15 | | まとめ | これまでの講義をまとめ、習熟を促す。 | |

| 教科目名 | 単位数 | 総時間数 | 授業形態 | 必修・選択別 | 開講学年 | 開講時期 | 担当講師名 |
|------|-----|------|------|--------|------|----------|-------|
| 情報処理 | 1 | 30 | 演習 | 必修 | 1 | 前期 後期 | 設楽秀子 |

【授業の概要】
 論文・レポート提出、研究発表会などに必要な情報処理スキルを学びます。
 全課程が演習となります。また、グループ学習を取り入れ、協力して課題を完成させる演習も行います。
 1回ごとに演習内容が異なるため、欠席した場合は、予習・復習が必須となります。

【学習到達目標】
 ・福祉現場でのコンピュータ活用事例をもとにアプリケーションの使用方法を習得する。
 ・インターネットの基礎知識を習得し、ネット社会のメリット、デメリット、便利さと危険性を学ぶ。
 ・動画作成、プレゼンテーション学習を通して、表現力やマルチメディア知識を習得する。
 ・グループ制作を通し、コミュニケーションや共同作業の方法を学ぶ。

【成績評価方法】
 1 筆記試験結果 2 授業態度 3 出欠席状況

【テキスト(教科書)・参考図書】
 1 テキスト(教科書)
 保育者のためのパソコン講座 Windows 10/8.1/7 Office 2010/2013/2016対応版
 2 参考図書
 講師作成資料

【実務経験】
 ・児童福祉施設にて実務経験(児童厚生1級特別指導員)
 ・コンピュータ製造会社にてインストラクター養成、システムサポートの実務経験

| | 回数 | 授業内容 | 各授業のねらい | 備考 |
|---|----|------------------------------|--|---|
| | 教 | 1 | ・オリエンテーション ・情報処理授業の概要 ・zoom実習 | ・情報処理室の使い方、注意事項確認 ・Windows10とネットワーク管理、フォルダ管理の説明 ・インターネットへの接続とホームページ閲覧 ・福祉現場におけるPCの活用の事例紹介 ・zoomの使い方 |
| 2 | | ・Word実習1 | ・Wordを使った文書の作成 ・リテラシーアンケート実施 ・文字の装飾、編集 ・写真や絵を組み合わせた文書の作成 ・表の作成 | |
| 3 | | ・Word実習2 | ・実用的な文書の作成 | |
| 4 | | ・Word実習3 | ・実用的な文書の作成 | 課題提出 |
| 育 | 5 | ・Excelを使った表作成1 | ・Excelの概要を理解する ・文字変換、簡単な表計算 ・表の装飾、書式 | |
| | 6 | ・Excelを使った表作成2 | ・関数、グラフ機能を理解する | |
| | 7 | ・Excelを使った表作成3 | ・実用的な表の作成 ・検索、データベース機能 | |
| | 8 | Word、Excelの組み合わせとまとめ | | |
| 内 | 9 | Word、Excel 理解度試験 | | 課題提出 |
| | 10 | ・PowerPointを使ったプレゼンテーションの作成1 | ・プレゼンテーションを理解する ・パワーポイントの使い方を理解する ・プレゼンテーションの課題を決める。 | |
| 容 | 11 | ・PowerPointを使ったプレゼンテーションの作成2 | ・素材集め ・プレゼンテーションを作成する | |
| | 12 | ・PowerPointを使ったプレゼンテーションの作成2 | ・プレゼンテーションを作成する | |
| | 13 | ・PowerPointを使ったプレゼンテーションの作成3 | ・プレゼンテーションを作成する | |
| | 14 | ・プレゼンテーション発表会1 | | |
| | 15 | ・プレゼンテーション発表会2 | | |

| 教科目名 | 単位数 | 総時間数 | 授業形態 | 必修・選択別 | 開講学年 | 開講時期 | 担当講師名 |
|--------|-----|------|------|--------|------|------|-------|
| キャリア形成 | 1 | 30 | 演習 | 必修 | 1 | 前・後期 | 中村 高弘 |

【授業の概要】
 キャリア形成に必要な知識を学ぶ。
 グループワークを中心に授業を進める。
 適宜、外部講師を招いて授業を行う。

【学習到達目標】

- 1 保育士として働くための基本的知識を習得する。
- 2 保育士として就職するための心構え、知識を習得する。

【成績評価方法】

- 1 レポートによる評価
- 2 出欠席状況

【テキスト(教科書)・参考図書】

- 1 テキスト(教科書)
 特に指定しない
- 2 参考図書

【実務経験】
 福祉事務所、児童相談所、障がい者施設等で勤務経験あり。

| | 回数 | 授業内容 | 各授業のねらい | 備考 |
|----|------------------|--------------------|-----------------------------------|---|
| | 教 育 内 容 | 1 | 保育の学びとは(1) | 授業全体のオリエンテーション 保育士、福祉の職場で働くために何を学ぶかを考える。 |
| 2 | | 保育の学びとは(2) | 保育士、福祉の職場で働くために、本校で何を学ぶかを考える。 | |
| 3 | | キャリアデザインを考える(1) | グループワーク それぞれの夢・将来の希望を語り合う | |
| 4 | | キャリアデザインを考える(2) | グループワーク 自己理解・他者理解 | |
| 5 | | コミュニケーション上手になろう | グループワーク 保育士としてコミュニケーション力について | |
| 6 | | 社会のルールとマナー | 社会人としての常識やルール、マナーについて学ぶ。 | |
| 7 | | キャリアデザインを考える(3) | グループワーク 保育士として働くために必要なことを話し合う。 | |
| 8 | | 保育士の仕事(保育士養成懇談会) | 同窓会会員の保育士(園長、主任クラス)との懇談会 | |
| 9 | | 保育士の仕事(保育士養成懇談会) | 同窓会会員の保育士(園長、主任クラス)との懇談会 | |
| 10 | | キャリアデザインを考える(4) | グループワーク これまで学んだことをまとめる。 | |
| 11 | | キャリアデザインセミナー(外部講師) | 外部講師による就職対策講座 | |
| 12 | | キャリアデザインセミナー(外部講師) | 外部講師による就職対策講座 | |
| 13 | | 保育士の仕事(先輩との交流会) | 卒後3年の卒業生との交流会 | |
| 14 | | キャリアデザインを考える(外部講師) | 市町村からのガイダンス | |
| 15 | | キャリアデザインを考える(外部講師) | 市町村からのガイダンス | |

| 教科目名 | 単位数 | 総時間数 | 授業形態 | 必修・選択別 | 開講学年 | 開講時期 | 担当講師名 |
|--------|-----|------|------|--------|------|------|-------|
| 地域実践演習 | 1 | 30 | 演習 | 必修 | 1, 2 | 前後期 | 中村 高弘 |

【授業の概要】
 ・地域住民との交流を行う。
 ・フィールドワークを取り入れる。
 ・地域住民とともに特別講義を受講する。

【学習到達目標】
 1 諏訪地域の特徴を幅広く学ぶ。
 2 地域住民との交流を通して豊かな人間性を培う。

【成績評価方法】
 1 レポートによる評価
 2 出欠席状況

【テキスト(教科書)・参考図書】
 1 テキスト(教科書)
 特に指定しない
 2 参考図書

【実務経験】
 福祉事務所、児童相談所、障がい者施設等で勤務経験あり。

| | 回数 | 授業内容 | 各授業のねらい | 備考 |
|----|------------------|--------------|----------------------|----------------|
| | 教 育 内 容 | 1 | オリエンテーション | 授業全体のオリエンテーション |
| 2 | | 地域住民との交流に向けて | 地域の自治会行事の参加にあたって事前学習 | |
| 3 | | 地域住民との交流 | 地域の自治会行事に参加する。 | |
| 4 | | 地域住民との交流 | 地域の自治会行事に参加する。 | |
| 5 | | 特別講義 | 地域住民も参加する特別講義を受講する。 | |
| 6 | | 特別講義 | 地域住民も参加する特別講義を受講する。 | |
| 7 | | フィールドワーク | 諏訪地域にある文化施設等を見学する。 | |
| 8 | | フィールドワーク | 諏訪地域のある文化施設等を見学する。 | |
| 9 | | 特別講義 | 諏訪地域のある文化施設等を見学する。 | |
| 10 | | 特別講義 | 地域住民も参加する特別講義を受講する。 | |
| 11 | | 特別講義 | 地域住民も参加する特別講義を受講する。 | |
| 12 | | 特別講義 | 地域住民も参加する特別講義を受講する。 | |
| 13 | | フィールドワーク | 諏訪湖での自然活動を体験する。 | |
| 14 | | フィールドワーク | 諏訪湖での自然活動を体験する。 | |
| 15 | | 全体のまとめ | 授業全体のまとめ | |

| 教科目名 | 単位数 | 総時間数 | 授業形態 | 必修・選択別 | 開講学年 | 開講時期 | 担当講師名 |
|--------|-----|------|------|--------|------|------|-------|
| 保育原理 I | 2 | 30 | 講義 | 必修 | 1 | 前期 | 伊藤 千枝 |

【授業の概要】
 保育を展開していくときに保育者として守るべき大切な基礎・基本を学びます。「保育所保育指針」などに示されていることを、事例などを読みながら理解します。
 主として講義形式で行います。実際に保育園の子どもたちと関わる演習も行います。

【学習到達目標】

| | |
|-----------------------------|------------------------|
| 1 保育の意義及び目的について理解する。 | 4 保育の思想と歴史的変遷について理解する。 |
| 2 保育に関する法令及び制度を理解する。 | 5 保育の現状と課題について理解する。 |
| 3 保育所保育指針における保育の基本について理解する。 | |

【成績評価方法】

- 筆記試験
- 授業態度
- 提出物提出

【テキスト(教科書)・参考図書】

- テキスト(教科書)
改訂2版「保育原理の基礎と演習」 柴崎正行／編著 (わかば社)
- 参考図書
保育所保育指針解説(厚生労働省 編)

【実務経験】
 児童相談所、福祉事務所、障がい者・児施設で勤務経験あり。

| | 回数 | 授業内容 | 各授業のねらい | 備考 |
|----|------------------|--------------------|--|-------------------------------------|
| | 教 育 内 容 | 1 | 授業内容ガイダンス・保育の目的 | ・保育原理で学ぶことを知る ・保育の対象としての子どもを理解する |
| 2 | | 保育の基本 | ・保育の基盤と養護の意味 ・保育所、幼稚園、認定こども園 | |
| 3 | | 子どもの発達 | ・子どもの発達とは何かを知る ・年齢ごとの子どもの姿と保育の内容について理解する | |
| 4 | | 保育の内容と養護・3つの視点と5領域 | ・保育の内容と構造について理解する ・遊びを通して総合的に展開される保育内容を理解する | |
| 5 | | 保育園の保育に参加する① | 年齢別の子どもの発達過程や、園の環境等を理解する① | 保育園の子どもたちと かかわる (半数は講義受講) |
| 6 | | 保育園の保育に参加する② | 年齢別の子どもの発達過程や、園の環境等を理解する② | 保育園の子どもたちと かかわる (半数は講義受講) |
| 7 | | 保育の方法① | ・保育実践における原則について理解する ・環境を通した保育について理解する | |
| 8 | | 保育の方法② | ・保育の過程について理解する ・保育の計画について理解する | |
| 9 | | 保育におけるさまざまな配慮 | ・健康および安全について理解する ・保育所における食育について理解する | |
| 10 | | 西洋の保育の歴史① | 諸外国の保育の思想と歴史を理解する | |
| 11 | | 西洋の保育の歴史② | 同上 | |
| 12 | | 日本の保育の歴史① | 日本の保育の歴史を理解する。 | |
| 13 | | 日本の保育の歴史② | 同上 | |
| 14 | | 保育の場における子育て支援 | 子育ての現状と課題を理解する | |
| 15 | | 保育の専門性と質の向上 まとめ | 保育の専門性、質の向上のための自己研鑽・評価について理解する。 教科のまとめ | |

| 教科目名 | 単位数 | 総時間数 | 授業形態 | 必修・選択別 | 開講学年 | 開講時期 | 担当講師名 |
|-------|-----|------|------|--------|------|------|-------|
| 保育原理Ⅱ | 2 | 60 | 演習 | 必修 | 2 | 後期 | 木澤 千波 |

【授業の概要】
 ふくしだい保育園の子ども姿から、生活と遊びにおける体験を捉え、子どもと向き合いながら、保育環境の展開や保育園行事等に携わり、実践的な保育技術を習得します。

【学習到達目標】
 1 子どもの育ちの理解と援助について、集団もしくは個別の関わりから、保育士として必要な技術を習得する。
 2 具体的な保育実践から、個々の発達や個性、体験を理解し、最適な援助方法を考える。
 3 保育現場における遊具や用具、素材等の特性を理解し、実際の子どものに即した保育教材の使用を考える。
 4 保育現場で必要な気遣い、気働きを身につける。

【成績評価方法】
 1 レポート、課題等
 2 演習評価

【テキスト(教科書)・参考図書】
 1 テキスト(教科書)
 2 参考図書

【実務経験】
 保育所、障がい児施設、児童心理治療施設での勤務経験あり。

| | 回数 | 授業内容 | 各授業のねらい | 備考 |
|--------|--------|--------------------------------------|---|---|
| 教 育 | 1 | 授業内容ガイダンス | ・演習の内容を理解し、学習意欲を高める。 | |
| | 2 | 保育園運動会準備・練習参加・リハーサル 運動会園児補助、運営補助等 | ・運動会企画、進行等について理解する。 ・園児個々の身体機能や情緒の発達に触れ、一人ひとりへの配慮を理解し、実践する。 ・園児と共に生活することで、園児との共感から生み出される双方の心の動きを体感する。 ・協働するために必要な知識と技術、気遣いを学ぶ。 | |
| | 3 | | | |
| | 4 | | | |
| | 5 | | | |
| | 6 | | | |
| | 7 | | | |
| | 8 | | | |
| | 9 | | | |
| | 10 | | | |
| | 内 容 | 11 | 保育園発表会準備・リハーサル 発表会園児補助、運営補助等 | ・年齢や個の発達状況を具体的に把握し、必要な援助を考える。 ・表現あそびの実践を学び、子どもの意欲を引き出す保育技術について学び、実践する。 ・壁面製作や、衣装作り等から、保育に必要な技術を習得する。 ・園児と共に生活することで、園児との共感から生み出される双方の心の動きを体感する。 ・保育現場における、気遣いや気働きについて意識し、自ら考え行動できる実践力を身につける。 |
| 12 | | | | |
| 13 | | | | |
| 14 | | | | |
| 15 | | | | |
| 16 | | | | |
| 17 | | | | |
| 18 | | | | |
| 19 | | | | |
| 20 | | | | |
| | 21 | 保護者との情報共有 | ・子どもの生活や心情に触れ、理解したうえで保護者と情報共有することの重要性を学ぶ。 | |
| | 22 | | | |
| | 23 | 学習のまとめ | ・演習を振り返り、机上の学びと実践との繋がりを総合的に理解する。 | |
| | 24 | | | |
| | 25 | | | |
| | 26 | | | |
| | 27 | | | |
| | 28 | | | |
| | 29 | | | |
| | 30 | | | |

| 教科目名 | 単位数 | 総時間数 | 授業形態 | 必修・選択別 | 開講学年 | 開講時期 | 担当講師名 |
|------|-----|------|------|--------|------|------|-------|
| 教育原理 | 2 | 30 | 講義 | 必修 | 1 | 前期 | 水岸 泰彦 |

【授業の概要】

保育士として教育の意義や教育の思想、歴史等の基礎的な理論を理解し、教育の制度、実践、現状と課題等について学ぶ。
主に講義形式で進めるが、教育・保育関連の新聞記事等の資料・視覚教材等も用いながら授業を行う。

【学習到達目標】

- 1 教育とは何かの基礎的な概念や思想、教育制度について学び、教育に関する基礎的な知識を習得する。
- 2 幅広く教育に関する知識と情報を取り込み、より広い視野から教師観・子ども観・教育観を深める。
- 3 教育改革の動向に注意を払い、現代の教育課題について自分なりの問題意識を持ち、主体的に考える機会を得る。
- 4 生涯学習社会における教育の現状と課題について理解する。

【成績評価方法】

- 1 筆記試験
- 2 参加態度・出席状況

【テキスト(教科書)・参考図書】

- 1 テキスト(教科書)
テキスト[やさしい教育原理] 第3版 田島一 他編著(有斐閣アルマ)
- 2 参考図書

【実務経験】

元中学校および養護学校教諭、小中学校校長

| | 回数 | 授業内容 | 各授業のねらい | 備考 |
|---|----|---|---|----------|
| 教 | 1 | 第1章 教育とは何か 1 人間への問いと教育への問い 2 学ぶことと教えること | ・人間とは何か・教育は人間社会に固有な営み・生物としてのヒトの特性・ルソーの『エミール』と「子どもの発見」・「学ぶ」能力と「教える」能力・「学ぶ」ことと新しい能力を手に入れる喜び | 1～20頁 |
| | 2 | 3 発達への助成的介入 4 教育と教化と形成 | ・発達と教育・発達への助成的介入としての教育・発達をめぐる理論・個性の形成と遺伝・環境・教育と教育にあらざるもの・「こやらい」の世界・教育をすることへの自覚・教育という言葉の用法 | 20～42頁 |
| | 3 | 第2章 学校とは何か(1) 学校の成り立ち 1 学校の登場 2 近代学校の性格 | ・「学校」とはどういう場か・なぜ「学校」が必要になったのか・中世の学校・「近代公教育」とは・なぜすべての子どもが学校に通うようになったのか・実際の近代公教育制度 | 43～59頁 |
| | 4 | 第3章 学校とは何か(2) 日本の学校 1 近代以前の日本の学校 2 日本の「近代化」と学校教育 | ・学校の成立・中世の学校・近代学校への準備・日本の近代公教育制度の成立と性格・教育勅語体制の成立・産業革命と学校教育・新教育運動・経済恐慌中の教育実践・戦争と学校教育 | 61～79頁 |
| | 5 | 3 新たな出発、その後の展開 | ・戦後教育改革と新教育・東西対立と教育改革の修正 ・高度経済成長と教育爆発・子どもをめぐる環境変化 | 79～88頁 |
| 育 | 6 | 第4章 ころとからだを育てる 1 ころとからだを育てる計画 2 学力とは何か | ・日本の教育計画・発達論と教育計画論・認識の発達・学力とは何か・学力を問い直す・2つの国際的な学力調査 | 91～103頁 |
| | 7 | 3 身体文化と教育 4 道徳性の発達と教育 5 教育における言葉と文化 | ・ころとからだの関係・「身につける」という考え方・道徳教育への関心のつよまり・道徳の本質と道徳教育・道徳的判断を支える価値・道徳的判断の発達・新しい道徳教育・母語と母国語・外言と内言 | 103～121頁 |
| | 8 | 第5章 よく学び、教えるために 1 学習することの意味 2 授業を改革するために 3 学校教育の可能性 | ・勉強はつまらないものか・学ぶ喜びを味わうために・学校教育の構想と計画・教科書と授業・学習訓練・学習形態と授業・学校行事の創造・表現活動の可能性・心をひらくということ | 123～137頁 |
| 内 | 9 | 第7章 授業の可能性・学校の可能性 1 授業をつくる 2 学ぶことは変わる | ・学校概念形成・授業概念形成・授業の成立・教材の発掘から授業づくりへ・子どもが変わる授業・生活と教育を結び・科学と教育を結び・生活と科学の結合・総合的な学習の時間 | 157～174頁 |
| | 10 | 3 学校をつくる 第8章 教師の仕事 1 教師とは何か | ・世界と日本の新教育運動・児童の村小学校・戦後新教育と島小学校・北海道家庭学校・教師が育つ場・教師の資格と資質・求められる力・教師生活の充実・学校の運営・学び続ける教師・専門性を備える | 174～193頁 |
| | 11 | 2 教師の力量とは何か 3 授業をつくる教師 | ・教師の資質と能力・教師の力量・深層を見抜く力・振り返るということ・仕事の核にあるもの・授業づくりの2つの視点・教えることと学ぶこと・豊かな学習活動をつくる | 194～207頁 |
| 容 | 12 | 第11章 教育への権利と「子どもの権利条約」 1 「子どもの権利宣言」から「子どもの権利条約」へ 2 「子どもの権利条約」のもつ意義 3 憲法・教育基本法(旧法および現行法)と「子どもの権利条約」 | ・「子どもの権利条約」とコルチャック先生・法的拘束力を持つ「子どもの権利条約」・子ども固有の権利・権利行使の主体者としての子ども・「能力に応じて」「ひとしく」の意味・義務教育無償制・児童福祉法 | 243～256頁 |
| | 13 | 第12章 よりよい教育を求めて 1 子どもの権利の発見 2 子どもの成長・発達をめぐる状況と「最善の利益」 | ・近代の権利思想・子どもの権利思想・子どもをめぐる状況の変容・「能力主義」「管理主義」・「教育的配慮」と校則・体罰・いじめと不登校・「障がい」を持つ子どもたちへの権利保障・外国籍の子どもたちへの保障 | 259～271頁 |
| | 14 | 3 社会の変容と教育政策の動向 | ・教育基本法の改正までの経緯・現行教育基本法の内容 ・教育改革の動き・全体のまとめ | 271～280頁 |
| | 15 | 全体のまとめ | 授業全体のまとめ | |

| 教科目名 | 単位数 | 総時間数 | 授業形態 | 必修・選択別 | 開講学年 | 開講時期 | 担当講師名 |
|--|---------|----------------------|--------|--------------------------------------|------|------|-------|
| 子ども家庭福祉 | 2 | 30 | 講義 | 必修 | 1 | 前期 | 春日 聡 |
| 【授業の概要】 保育士には子どもへの直接的な働きかけだけでなく、その子どもの家庭が抱える課題に気づき、必要な支援に結びつけることも重要な役割である。そのため、この授業では権利擁護の視点をもって子どもとその家庭の現状と課題を学ぶことになる。 主として講義形式によるが、グループワークを取り入れ授業をすすめる。 | | | | | | | |
| 【学習到達目標】 1. 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解する。 2. 子どもの人権擁護について理解する。 3. 子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。 4. 子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。 5. 子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。 | | | | | | | |
| 【成績評価方法】 1 筆記試験結果 2 授業態度 3 出欠席状況 | | | | | | | |
| 【テキスト(教科書)・参考図書】 1 テキスト(教科書) 子ども家庭福祉 喜多一憲、堀場純矢他 みらい | | | | | | | |
| 【実務経験】 児童相談所(児童福祉司)、福祉事務所(社会福祉主事)、障がい者施設で勤務経験あり。 | | | | | | | |
| 教 育 内 容 | 回数 | 授業内容 | | 各授業のねらい | | | 備考 |
| | 1 | 多様な子ども家庭福祉問題 | | 現代社会における子どもの育ちと多様な子ども家庭福祉問題について学ぶ。 | | | |
| | 2 | 子ども家庭福祉の理念 | | 子ども家庭福祉の理念について学ぶ。 | | | |
| | 3 | 子どもの権利と子ども観 | | 児童に関する権利がどのように発展してきたかを学ぶ。 | | | |
| | 4 | 子どもの権利と子ども観 | | 児童に関する宣言、憲章、条約などを学び、関連する人物について理解する。 | | | |
| | 5 | 子どもの権利と子ども観 | | 子ども家庭福祉の制度がどのように変遷してきたかを学ぶ。 | | | |
| | 6 | 子ども家庭福祉の展開 | | 子ども家庭福祉に業績のあった人物について学ぶ。 | | | |
| | 7 | 子ども家庭福祉の制度と法体系 | | 児童福祉法を中心に子ども家庭福祉に係わる法律体系について学ぶ。 | | | |
| | 8 | 子ども家庭福祉の制度と法体系 | | 児童相談所、福祉事務所、児童家庭支援センターなどの実施機関について学ぶ。 | | | |
| | 9 | 子ども家庭福祉の施設及び里親制度 | | 児童福祉施設、里親制度について学ぶ。 | | | |
| | 10 | 子ども家庭福祉にかかる支援について | | 子ども家庭福祉の支援の基本と倫理、専門職について学ぶ。 | | | |
| | 11 | 在宅児童を対象とした子ども家庭福祉の実際 | | 子育て支援サービスと子ども家庭福祉の課題について学ぶ。 | | | |
| | 12 | 様々な状況にある子どもの援助の実際 | | 児童虐待とDVの現状と対応について学ぶ。 | | | |
| | 13 | 様々な状況にある子どもの援助の実際 | | ひとり親家庭への支援、障がい児の支援の実際について学ぶ。 | | | |
| | 14 | まとめ① | | まとめ | | | |
| 15 | 全体のまとめ② | | 全体のまとめ | | | | |

| | | | | | | | |
|------|-----|------|------|--------|------|------|-------|
| 教科目名 | 単位数 | 総時間数 | 授業形態 | 必修・選択別 | 開講学年 | 開講時期 | 担当講師名 |
| 社会福祉 | 2 | 30 | 講義 | 必修 | 1 | 後期 | 中村 高弘 |

【授業の概要】

福祉の専門職として、保育士が携わる子どもやその保護者の支援のために、社会福祉の理念、法制度について学ぶ。
主として講義形式によるがグループワーク等も取り入れ授業を進める。

【学習到達目標】

- 1 社会福祉全般について、保育士として必要な基本的知識(社会福祉の理念、法体系、制度、援助技術、利用者保護制度、関連領域等)を習得する。
- 2 現代社会における社会福祉の機能、役割について理解し、専門職としての基本的な認識を深める。
- 3 社会福祉の今日までの歴史の変遷を理解するとともに、福祉従事者のあり方や多様化、増大する福祉ニーズへの対応について学ぶ。

【成績評価方法】

- 1 筆記試験結果
- 2 授業態度
- 3 出欠席状況

【テキスト(教科書)・参考図書】

- 1 テキスト(教科書)
学ぶ・わかる・みえる 保育と社会福祉 第4版 橋本 好市 宮田 徹 編 (株式会社 みらい)
- 2 参考図書

【実務経験】

福祉事務所、児童相談所、障がい者施設等で勤務経験あり。

| | 回数 | 授業内容 | 各授業のねらい | 備考 |
|----|------------------|--------------------------------|---|-------------------------------------|
| | 教 育 内 容 | 1 | オリエンテーション | 授業全体のオリエンテーション 社会福祉とは何かについて理解する。 |
| 2 | | 生活課題と社会福祉 | 保育や子育てをめぐる課題 高齢者の介護をめぐる課題 等 | |
| 3 | | 社会福祉の歴史の変遷 | 諸外国と日本の社会福祉の歩みについて理解する。 | |
| 4 | | | | |
| 5 | | 生活を守る社会保障制度 | 社会保険制度、公的扶助、社会福祉サービスについて理解する。 | |
| 6 | | | | 生活保護制度を理解する。 |
| 7 | | 社会福祉の制度と法体系 | 戦後の社会福祉に関する日本の法制度について理解する。 | |
| 8 | | 社会福祉の実施機関と行財政 | 社会福祉に関わる行政機関、民間専門機関、団体について理解する。 | |
| 9 | | 社会福祉施設と専門職 | 社会福祉施設と法制度、社会福祉の専門職について理解する。 | |
| 10 | | 共生社会と障がい者福祉 | 障がい者福祉について理解する。 | |
| 11 | | 高齢者の福祉と介護保険 | 高齢者福祉と介護保険制度について理解する。 | |
| 12 | | 地域福祉の意味と推進方法 社会福祉の専門職と倫理 | 地域福祉推進について理解する。 社会福祉の専門職と倫理について理解する。 | |
| 13 | | 相談援助の意味と方法 | 相談援助について理解する。 | |
| 14 | | 福祉サービスの利用支援と第三者評価 権利擁護と苦情解決 | 社会福祉サービスの情報提供、第三者評価、権利擁護、苦情解決について理解する。 | |
| 15 | | 全体のまとめ | 全体のまとめ | |

| 教科目名 | 単位数 | 総時間数 | 授業形態 | 必修・選択別 | 開講学年 | 開講時期 | 担当講師名 |
|----------|-----|------|------|--------|------|------|-------|
| 子ども家庭支援論 | 2 | 30 | 講義 | 必須 | 2年 | 前期 | 春日 聡 |

【授業の概要】
 子どもを取り巻く「家庭」とは、どのようになっているのか。家族と家庭、子育ての支援、関係機関等の連携について学びます。
 講義形式のほかグループ討論、映像などを利用します。

【学習到達目標】
 1. 子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する。
 2. 保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。
 3. 子育て家庭に対する支援の体制について理解する。
 4. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。

【成績評価方法】
 1 筆記試験結果
 2 授業態度
 3 出欠席状況

【テキスト(教科書)・参考図書】
 1 テキスト(教科書)
 子ども家庭支援論 松原康雄、村田典子、南野奈津子 中央法規

【実務経験】
 児童相談所(児童福祉司)、福祉事務所(社会福祉主事)、障がい者施設で勤務経験あり。

| | 回数 | 授業内容 | 各授業のねらい | 備考 |
|----|------------------|-------------------------------------|---|------------------------------------|
| | 教 育 内 容 | 1 | 子ども家庭支援の意義 | 子育て家庭の歴史、子育て観の移り変わり、公的支援の歴史について学ぶ。 |
| 2 | | 子ども家庭支援の目的と機能 | 児童福祉法の改正と子ども家庭支援の制度について学ぶ | |
| 3 | | なぜ子育て家庭支援が心要なのか | 子育て家庭に対する支援の必要性について学ぶ。 | |
| 4 | | 子育て家庭を助ける制度と関係機関とは | 子育て家庭支援の制度と関係機関について学ぶ。 | |
| 5 | | 国は子育て支援にどう取り組んでいるのか 新しい社会的養育ビジョン | 国の子育て支援施策、社会的養育ビジョンについて学ぶ。 | |
| 6 | | 子どもの育ちの喜びの共有 | 子どもの育ちの共有を保育所保育指針から学ぶ。 | |
| 7 | | 保育士に求められる基本的態度 | 保育者と保護者の信頼関係について学ぶ。 | |
| 8 | | 子育て家庭をどう支援すればいいのか | 子育て家庭支援の方法、支援の特徴、関係機関との連携等について学ぶ。 | |
| 9 | | 日常場面での家庭支援はどうするのか | 保育所等における支援について学ぶ。 | |
| 10 | | 特別な対応が必要な家庭にどう対応すればいいのか | 気になる子ども/発達障がいをもつ家庭、ステップファミリー、外国籍の家庭などの対応について学ぶ。 | |
| 11 | | 子どもが危ない状態にあったらどうすればいいのか | 児童虐待、DVなど危機的状態にある家庭への支援について学ぶ。 | |
| 12 | | 人権について考える | 人権擁護委員から人権(差別)について学ぶ。 | |
| 13 | | 子育て支援に関する課題と展望 | 今後の子育て家庭支援の課題と展望について学ぶ。 | |
| 14 | | まとめ① | まとめ | |
| 15 | | 全体のまとめ② | 全体のまとめ | |

| 教科目名 | 単位数 | 総時間数 | 授業形態 | 必修・選択別 | 開講学年 | 開講時期 | 担当講師名 |
|---------|-----|------|------|--------|------|------|-------|
| 社会的養護 I | 2 | 30 | 講義 | 必修 | 1 | 後期 | 菅 雄峰 |

【授業の概要】
 社会的養護の概要や、社会的養護を必要とする子ども達が抱えている実際の状況を理解する。その上で、職員(保育士等)として果たすべき役割について学ぶ。

【学習到達目標】
 1 現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解する。
 2 社会的養護の実際の状況を理解する。
 3 ジェノグラム等を利用して児童を取り巻く状況を整理し、課題解決への理解を深める。
 4 子どもとの関わりについての記録の取り方や関連機関(児相・学校等)との実務について理解する。
 5 社会的養護に携わる職員(保育士等)としての倫理的・社会的責任を理解し、それを子どもや家族との関わり方に生かす。

【成績評価方法】
 1 筆記試験結果
 2 授業態度
 3 出欠席状況

【テキスト(教科書)・参考図書】
 1 テキスト(教科書)
 よりそい支える 社会的養護 I 第二版 中山正雄 監修 浦田雅夫 編著(教育情報出版)
 2 参考図書
 授業内で適宜紹介

【実務経験】
 児童養護施設たかざやの里 昭和57年より児童指導員として勤務。平成28年より施設長

| | 回数 | 授業内容 | 各授業のねらい | 備考 |
|----|------------------|-------------------|--|-------------------------------------|
| | 教 育 内 容 | 1 | 社会的養護の制度と現状 | 社会的養護の現状と今後の方向性を理解し、社会的養護のあり方を考察する。 |
| 2 | | 社会的養護の成り立ち ① | 日本の社会的養護の歴史について理解する。 | |
| 3 | | 社会的養護の成り立ち ② | 海外の社会的養護の歴史について理解をする。 | |
| 4 | | 社会的養護に関わる児童問題 | 現代社会における児童を取り巻く諸問題について理解をする。 | |
| 5 | | 社会的養護の実際 1 | ケース概要を把握し、整理することにより課題を考察する。 | |
| 6 | | 社会的養護の実際 2 | ケースが抱える課題から日常生活における支援のあり方を考察する。 | |
| 7 | | 社会的養護の実際 3 | 児童養護施設・里親と関連機関との連携のあり方について学ぶ。 | |
| 8 | | 社会的養護の実際 4 | 家庭復帰や自立に伴う支援制度の活用について学ぶ | |
| 9 | | 虐待防止法等関連法と社会的養護 1 | 社会的養護に携わる職員として倫理的・社会的責任に関する法律や考え方について学ぶ | |
| 10 | | 虐待防止法等関連法と社会的養護 2 | 法律が実際の支援の場面において、どのように関わってくるのかを事例をとおして学ぶ | |
| 11 | | 社会的養護とソーシャルワーク | 社会的養護におけるソーシャルワークの必要性を理解するとともに、その活用方法について学ぶ。 | |
| 12 | | 施設養護の運営管理 | 児童福祉施設の運営・管理基準やリスクマネジメント、第三者評価等について理解する。 | |
| 13 | | 里親制度・養子縁組制度の現状と課題 | 里親制度・養子縁組制度の仕組みや現状、課題等について理解する。 | |
| 14 | | 社会的養護と地域福祉 | 施設の多機能化における地域の子育て支援への取り組み等について理解する。 | |
| 15 | | 授業総括 | 授業全体を通しての要点の整理等を行う。 | |

| 教科目名 | 単位数 | 総時間数 | 授業形態 | 必修・選択別 | 開講学年 | 開講時期 | 担当講師名 |
|------|-----|------|------|--------|------|------|-------|
| 保育者論 | 2 | 30 | 講義 | 必修 | 1 | 後期 | 木澤 千波 |

【授業の概要】
 乳幼児期の教育・保育の基本について必要な知識やスキルを学び、保育者として必要な実践力の獲得を目指します。主として講義形式で行います。必要に応じてグループワークやふくしだい保育園の子どもたちとの関わりも取り入れます。

【学習到達目標】

| | |
|------------------------|-----------------------|
| 1 保育者の役割と倫理について理解する。 | 4 保育者の協働について理解する。 |
| 2 保育士の制度的な位置づけを理解する。 | 5 保育者の専門職的成長について理解する。 |
| 3 保育士の専門性について考察し、理解する。 | |

【成績評価方法】

- 筆記試験
- 授業態度

【テキスト(教科書)・参考図書】

- テキスト(教科書)
 最新保育講座2 第2版「保育者論」 汐見稔幸 大豆生田啓友／編 (ミネルヴァ書房)
- 参考図書

【実務経験】
 保育所、障がい児施設、児童心理治療施設での勤務経験あり。

| | 回数 | 授業内容 | 各授業のねらい | 備考 |
|----|------------------|---------------------|--|-------------------|
| | 教 育 内 容 | 1 | 授業内容ガイダンス 保育者の役割 | 資格・要件・責務について理解する。 |
| 2 | | 保育者の一日 | 具体的な仕事内容を理解する。 | |
| 3 | | 子どもの思いや育ちを理解する仕事 | 子ども理解の二つの側面について学ぶ。 | |
| 4 | | | 子どもを読み解くということについて理解する。 | |
| 5 | | 子どもと一緒に心と体を動かす仕事 | 遊びを支える5つの役割、心地よい生活の仕方を子どもと一緒に考える。 | |
| 6 | | | | |
| 7 | | 保護者や家庭と一緒に歩む仕事 | 子育てのパートナーとしての保育者について理解する。 | |
| 8 | | | 多様な社会の中で私たちができる支援について理解する。 | |
| 9 | | | | |
| 10 | | 保育者の専門性 | 保育現場で求められる人材について理解する。 保育者の専門性と省察について理解する。 | |
| 11 | | | | |
| 12 | | | | |
| 13 | | 保育の場における保育者の成長と同僚関係 | 「語り合い」「学び合い」が生み出すものについて理解する。 | |
| 14 | | | | |
| 15 | | 総括 | まとめ | |

| 教科目名 | 単位数 | 総時間数 | 授業形態 | 必修・選択別 | 開講学年 | 開講時期 | 担当講師名 |
|--------|-----|------|------|--------|------|------|-------|
| 保育の心理学 | 2 | 30 | 講義 | 必修 | 1 | 前期 | 竹村 智子 |

【授業の概要】
 子どもを理解するために必要となる発達に関わる心理学について学ぶ。授業は、教科書に基づき講義形式で行う。必要により、DVD等の視聴やグループワークを行い理解を深める。

【学習到達目標】
 1 保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえ、発達を捉える視点について理解する。
 2 子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、養護及び教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深める。
 3 乳幼児期の子どもの学びの過程や特性について基礎的な知識を習得し、保育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を理解する。

【成績評価方法】
 1 筆記試験
 2 提出物
 3 授業態度
 4 出欠席状況

【テキスト(教科書)・参考図書】
 1 テキスト(教科書)
 「保育の心理学」 本郷一夫・飯島典子 編著 (建帛社)
 2 参考図書

【実務経験】
 児童相談所(児童心理司)、大学の学生相談室で勤務経験あり。

| | 回数 | 授業内容 | 各授業のねらい | 備考 |
|------------------|----|----------------------|---|----|
| 教 育 内 容 | 1 | オリエンテーション | ①心理学の分野での発達の考え方を知る。 ②発達段階による捉え方を学ぶ。 | |
| | 2 | 発達に関する基本的な考え方 I | 発達を規定する要因や初期経験について理解する。 | |
| | 3 | 発達に関する基本的な考え方 II | ①子どもの発達の背景を理解する。 ②子ども・子育てをめぐる変化を理解する。 | |
| | 4 | 身体・運動の発達 | ①運動の重要性を理解する。 ②新生児反射や運動発達の特徴を学ぶ。 | |
| | 5 | 乳児期・幼児期前期の認知発達 | ①認知発達の仕組みを理解する。 ②乳児期及び幼児期前期の認知の特徴を知る。 | |
| | 6 | 幼児期後期・児童期の認知発達 | 幼児期後期及び児童期の認知の特徴を知る。 | |
| | 7 | 言語の発達 | ①言語発達の筋道を理解する。 ②言語発達を支える人間関係の発達を学ぶ。 | |
| | 8 | 感情の発達 | ①感情の分化について理解する。 ②自我の芽生えと感情のコントロールについて理解する。 | |
| | 9 | 子どもの学びと発達 | ①学習原理について理解する。 ②知能とその測定、動機付けについて学ぶ。 | |
| | 10 | 社会性の発達 | ①社会性の発達について理解する。 ②自己の発達及び自己制御について理解する。 | |
| | 11 | 仲間関係の発達 | ①仲間関係の意義を理解する。 ②乳幼児期の仲間関係の発達について学ぶ。 | |
| | 12 | 生活と遊びを通した学び | ①遊びの意義について学ぶ。 ②遊びを通した学びについて理解する。 | |
| | 13 | 特別な配慮を必要とする子どもの特徴と支援 | ①発達障害等の障害について学ぶ。 ②保育における配慮と支援、保護者支援について理解する。 | |
| | 14 | 子どもの発達と現代的課題 | ①子どもの発達に関する課題を学ぶ。 ②子どもの発達と学びの連続性について理解する。 | |
| | 15 | まとめ | 授業のまとめ | |

| 教科目名 | 単位数 | 総時間数 | 授業形態 | 必修・選択別 | 開講学年 | 開講時期 | 担当講師名 |
|-------------|-----|------|------|--------|------|------|-------|
| 子ども家庭支援の心理学 | 2 | 30 | 講義 | 必修 | 1 | 後期 | 竹村 智子 |

【授業の概要】
 子育て家庭を支援する上で必要となる、生涯発達に関する心理学の基礎知識や、家族の役割、子育て家庭をめぐる課題等について学ぶ。
 授業は、教科書に基づき講義形式で行う。必要により、DVD等の視聴やグループワークを行い理解を深める。

- 【学習到達目標】**
- 1 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。
 - 2 家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもとその家族を包括的に捉える視点を習得する。
 - 3 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。
 - 4 子どもの精神保健とその課題について理解する。

- 【成績評価方法】**
- | | |
|--------|---------|
| 1 筆記試験 | 3 授業態度 |
| 2 提出物 | 4 出欠席状況 |

【テキスト(教科書)・参考図書】

- 1 テキスト(教科書)
 「子ども家庭支援の心理学」 本郷一夫・神谷哲司 編著 (建帛社)
- 2 参考図書

【実務経験】
 児童相談所(児童心理司)、大学の学生相談室で勤務経験あり。

| 教 育 内 容 | 回数 | 授業内容 | 各授業のねらい | 備考 |
|------------------|----|------------------------|--|---------------------------|
| | | 1 | オリエンテーション、乳幼児期から学童期にかけての発達の特徴 | 乳幼児期から学童期にかけての発達の特徴を理解する。 |
| | 2 | 思春期から青年期の発達の特徴 | 思春期から青年期の発達の特徴を理解する。 | |
| | 3 | 成人期から高齢期の発達の特徴 | 成人期から高齢期の発達の特徴を理解する。 | |
| | 4 | 家族システムと家族発達 | ①家族をシステムとして捉える考え方を学ぶ。 ②家族の機能と家族の発達を学ぶ。 | |
| | 5 | 親としての養育スタイルの形成過程と世代間伝達 | ①不適切な養育スタイルとその背景要因について学ぶ。 ②愛着の世代間伝達について学ぶ。 | |
| | 6 | 子育て環境の社会状況的变化 | ①子育て環境の歴史的及び社会状況的变化を理解する。 ②現代の子育て環境の課題を学ぶ。 | |
| | 7 | ライフコースとワーク・ライフ・バランス | 子育て期の生活とワーク・ライフ・バランスについて学ぶ。 | |
| | 8 | 多様な子育て家庭への支援 | 育児不安をもつ家庭、育児サポート環境のない共働き家庭等への支援について、事例を通して学ぶ。 | |
| | 9 | 特別な配慮を必要とする家庭への支援 | 虐待の疑いがある家庭、保護者が精神障害を抱える家庭等への支援について、事例を通して学ぶ。 | |
| | 10 | 子どもを取り巻く生活環境と心身の健康 | ①基本的な生活習慣の確立と支援について学ぶ。 ②子どもの事故防止について学ぶ。 | |
| | 11 | 子どもの心と健康 | ①子どもの心の健康について学ぶ。 ②幼児期・学童期に見られる主な精神障害について理解する。 | |
| | 12 | 障害のある子どもの理解と対応 | 知的障害及び発達障害について学び、保育場面での援助について理解する。 | |
| | 13 | 災害と子ども | 災害による子どもへの心理的影響について学び、保育者の対応を理解する。 | |
| | 14 | まとめ I | 授業のまとめ | |
| | 15 | まとめ II | 授業のまとめ | |

| 教科目名 | 単位数 | 総時間数 | 授業形態 | 必修・選択別 | 開講学年 | 開講時期 | 担当講師名 |
|-----------|-----|------|------|--------|------|------|-------|
| 子どもの理解と援助 | 1 | 30 | 演習 | 必修 | 1 | 後期 | 宮坂 則子 |

【授業の概要】
 保育所保育指針に示された「子ども主体の保育」の在り方を学び、子どもを理解する大切さを学ぶ。エピソード・事例等、具体的な子どもの姿を通して、子どもを理解する視点・援助・配慮等を学び身につける。グループワークも取り入れ、子どもの理解に不可欠なカンファレンスの大切さを学ぶ。

【学習到達目標】
 1 保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを理解することの意義について理解する。
 2 子どもの経験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な視点・考え方を理解する。
 3 子どもを理解するための具体的な援助・保育方法を理解する。
 4 子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する。

【成績評価方法】
 1. 筆記試験
 2. 授業態度(出欠席を含む)
 3. 課題提出

【テキスト(教科書)・参考図書】
 1 テキスト(教科書)
 『保育方法・指導法』大豆生田啓友編(ミネルヴァ書房)
 2 参考図書
 『保育所保育指針解説』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』

【実務経験】
 保育士(保育士・主任・園長)・児童センター児童主任厚生員・保育専門活動員(全国保育協議会・全国保育士会)の経験あり

| | 回数 | 授業内容 | 各授業のねらい | 備考 |
|----|------------------|-----------------------------------|--|-------------------------------|
| | 教 育 内 容 | 1 | 保育における「子ども理解」の意義 | 保育においてどうして「子ども理解」が大切かを学び理解する。 |
| 2 | | 子ども理解における保育士の姿勢 | 子どもの育ちと保育士の人的環境の関係性、保育士の資質について考える。 | |
| 3 | | 子ども理解に基づく養護と教育の一体 | 養護と教育について理解し、養護と教育を一体的に行う保育の特性について学ぶ。 | |
| 4 | | 子ども理解における発達の視点 | 発達過程を理解し個人差と発達課題に応じた子どもの理解と援助と関わりについて探り学ぶ。 | |
| 5 | | 子どもの育ちに繋がる環境の大切さと構成 | 環境について理解し、子どもが自ら関わり育つことのできる環境の在り方について学ぶ。 | |
| 6 | | 子どもを理解する視点でのあそび | 遊びの大切さと育つものを認識し、遊びから子どもを理解し援助の在り方を学ぶ。 | |
| 7 | | 子どもを理解する視点での生活 | 園生活での子どもの姿を理解し、子どもが主体的に生活できる保育形態や援助を探る。 | |
| 8 | | 子どもを理解する視点での葛藤・つまずき・トラブル及び個と集団の関係 | 子どもの葛藤・トラブルを通しての子どもの理解と自ら乗り越える力を育む為の援助を学ぶ。集団の質を高め、集団の中での個の育ちを学ぶ。 | |
| 9 | | 特別な配慮を要する子どもの理解と援助 | 発達障害の子、外国籍の子、虐待児など特別な配慮の必要な子どもへの理解と援助について理解する。 | |
| 10 | | 保護者理解と援助の基本・子育て支援 | 保護者の心に寄り添い、子育ての多様性を認めた子育て支援の在り方を学ぶ。 | |
| 11 | | 子ども・保護者の心へのアプローチと方法 | 子どもや保護者への望ましい接し方の実際について具体的に理解する。 | |
| 12 | | 子ども理解のための観察・記録・省察・評価と職員の連携 | 子どもの育ちと理解のための実践記録、評価課題と職員の連携の重要性を理解する。 | |
| 13 | | 幼保小から小学校への連続性の大切さ | 幼保小接続期における発達と学びの連続性と連携の大切さを学ぶ。 | |
| 14 | | 保育所保育の特性と子ども理解のまとめ | 保育所保育の特性と、子ども主体の保育を行うための子ども理解について学んだことをまとめる。 | |
| 15 | | 子ども・保護者・職員が共に育ちあえる保育の在り方 | 園生活で共に育ちあえ、地域の資源となれる保育園の在り方を探る。 | |

| 教科目名 | 単位数 | 総時間数 | 授業形態 | 必修・選択別 | 開講学年 | 開講時期 | 担当講師名 |
|--------|-----|------|------|--------|------|------|-------|
| 子どもの保健 | 2 | 30 | 講義 | 必修 | 1 | 前期 | 小松 佳道 |

【授業の概要】
 子どもの健康増進を図る保健活動の意義を理解し、子どもの実情に合わせた保育者の的確な対応について理解する。小児保健の現状など実際の現場に即した内容を学ぶ。
 授業は講義形式で行う。

【学習到達目標】
 1 子どもの保健の概念と意義について学ぶ。
 2 児童の心身の発育、発達(胎児～青年期)を学び、理解する。
 3 疾病の医学的背景を学び、理解する。
 4 小児の医療と疾病予防、環境、保育者の役割を学ぶ。

【成績評価方法】
 筆記試験結果及び授業態度等を勘案した総合評価

【テキスト(教科書)・参考図書】
 1 テキスト(教科書)
 子どもの保健テキスト 小林美由紀 (診断と治療社)
 2 参考図書

【実務経験】
 医師として地域の診療活動に従事(豊田診療所長)

| | 回数 | 授業内容 | 各授業のねらい | 備考 |
|----|------------------|----------------------|--|--------------------------------|
| | 教 育 内 容 | 1 | 子どもの健康と保健 | ①健康活動の意義と目的 ②子どもの出生と母子保健の意義 |
| 2 | | 同上 | ③子どもの健康に関する現状と課題 | |
| 3 | | 子どもの発育・発達の保健 | ①身体発育と運動機能の発達 | 第2章 |
| 4 | | 同上 | ②生理機能の発達と生活習慣 | |
| 5 | | 地域における保健活動と子どもの虐待防止 | 虐待について学ぶ | 第3章 |
| 6 | | 子どもの健康状態の観察と体調不良時の把握 | 健康状態の把握について学ぶ | 第4章 |
| 7 | | 子どもの病気 | ①子どもの免疫の発達と感染症の特徴 | 第5章 |
| 8 | | 同上 | ②感染症の予防および適切な対応 | |
| 9 | | 同上 | ③救急疾患の特徴と適切な対応 ④新生児の病気、先天性の病気の特徴と対応 | |
| 10 | | 同上 | ⑤アレルギー疾患の特徴と適切な対応 | |
| 11 | | 同上 | ⑥慢性疾患の特徴と適切な対応 | |
| 12 | | 保護者との情報共有と家族の支援 | 健康情報の共有について | 第6章 |
| 13 | | 子どもの健康診断と関連機関との連携 | 健康診断について | 第7章 |
| 14 | | 同上 | 関係機関について | |
| 15 | | 子どもの保健のまとめ | 授業全体のまとめ | |

| 教科目名 | 単位数 | 総時間数 | 授業形態 | 必修・選択別 | 開講学年 | 開講時期 | 担当講師名 |
|--|------------|---|------|---|------|------|--------|
| 子どもの食と栄養 | 2 | 60 | 演習 | 必修 | 2 | 前期 | 中澤 久美子 |
| 【授業の概要】 望ましい食生活や食事バランスについて学び、自身の食習慣について振り返る。 それぞれのライフステージの問題点や特徴について学び、それに合わせた調理実習を行い試食する。児童施設において子どもたちや保護者に支援や啓蒙ができるように「食」について深い考えを持つ。食育については実例を掲げ、行事食や保育・教育に生かせる様々な実習をし、実践できるようにする。 | | | | | | | |
| 【学習到達目標】 1 小児期における栄養や食生活は、生涯にわたり心と体の健康と生活の基礎であることを理解し、望ましい食事の摂り方や栄養・食品全般について学ぶ。 2 保育者として、子どもに適切な食事を提供することの意義を理解する。 3 保育者として、適切で有効な栄養教育の重要性を認識し、食環境等への関心を高める。 | | | | | | | |
| 【成績評価方法】 課題レポート提出、授業出席・参加態度等による総合評価 | | | | | | | |
| 【テキスト(教科書)・参考図書】 1 テキスト(教科書) 「子どもの食と栄養」 医歯薬出版 2 参考図書 「保育所保育指針解説書」及び「幼稚園教育要領解説」 フレーベル館 | | | | | | | |
| 【実務経験】 管理栄養士 保育所給食管理 保健所、保健センター、子育て支援センターにおいて栄養指導、相談、調査、乳幼児健診 | | | | | | | |
| 教 育 内 容 | 回数 | 授業内容 | | 各授業のねらい | | 備考 | |
| | 1 | 子どもの健康と食生活の意義 | | 小児期の区分毎における特徴とそれにとともなう適切な食事摂取の重要性の理解 | | | |
| | 2 | 子どもの発育発達の基本的理解と食事の関係 | | | | | |
| | 3 | 栄養と食品に関する基本的知識 食育の基本とその内容、食事摂取基準 調理実習の心得と準備 | | 食生活指針や食事バランスガイドによる「望ましい食生活」の理解 食育についての理解 | | | |
| | 4 | | | | | | |
| | 5 | 調理の基本とバランス食 | | 計量方法や器具の扱い エコクッキング、だしのとり方 調味パーセント | | | |
| | 6 | 調理実習・発表 | | | | | |
| | 7 | 妊婦・授乳婦の栄養と食生活 | | 健やかな妊娠・出産・育児をするための食事や食生活の重要性を理解 | | | |
| | 8 | 調理実習・発表 | | | | | |
| | 9 | 乳児期の栄養と食生活 | | 乳汁栄養の各特徴 | | | |
| | 10 | 乳汁栄養、調乳と授乳 | | 調乳方法と与え方 | | | |
| | 11 | 離乳食の意義と進め方 | | 望ましい離乳食の進め方と区分毎の調理方法と与え方 | | | |
| | 12 | 離乳食の作り方と与え方 ベビーフードの扱い | | | | | |
| | 13 | 乳幼児期(1～2歳)の栄養と食生活 | | 特徴と問題点 | | | |
| 14 | 適正栄養量と食事内容 | | | | | | |

| | | | | |
|---|----|--|------------------------|--|
| 教 | 15 | 幼児期(3～5歳)の栄養と食生活 | 特徴と問題点 | |
| | 16 | 調理実習 | 適正栄養量と食事内容 | |
| | 17 | 間食について | 間食の役割や与え方の留意点 | |
| | 18 | 手作りおやつ調理実習 | 食品添加物 | |
| | 19 | 児童福祉施設における食事 | 給食供与の役割と実際 | |
| | 20 | | 保育士の関わり | |
| 育 | 21 | 保育所における集団給食と食育指導 保育所保育指針、幼稚園教育要領における 食育のとらえ方 | 保育所給食の役割と実際 | |
| | 22 | | 適切で有効な食育指導とは | |
| 内 | 23 | 特別な配慮を要する子どもの食と栄養 | 多く見られる病気と食事対応 | |
| | 24 | | 症状と程度にあった食事内容 | |
| | 25 | 食文化と伝承、特別献立 | 日本古来の行事と食のつながり | |
| | 26 | | 特別献立の取り入れ方 たのしい会食 | |
| 容 | 27 | グループ学習 食事摂取基準と献立作成 調理実習と発表 | 総合学習 〔献立作成他〕 | |
| | 28 | | | |
| | 29 | 子どもと作る食事 | 子どもに「作る」「食べる」喜びを伝えるために | |
| | 30 | 調理室片づけ・まとめ | レポート提出 | |

| 教科目名 | 単位数 | 総時間数 | 授業形態 | 必修・選択別 | 開講学年 | 開講時期 | 担当講師名 |
|----------|-----|------|------|--------|------|------|-------|
| 保育の計画と評価 | 2 | 30 | 講義 | 必修 | 2 | 後期 | 塩崎 正 |

【授業の概要】

- 1 「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の内容や社会的背景を理解し、保育の計画や評価の意義、方法を理解する。
- 2 自ら指導計画(長期・短期)を作成しながら、カリキュラム・マネジメントの手法を体験的に身に付ける。

【学習到達目標】

- 1 保育内容の充実と質の向上に資する保育の計画及び評価について理解する。
- 2 全体的な計画と指導計画の作成について、その意義と方法を理解する。
- 3 子ども理解に基づく保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)について、その全体構造を捉え理解する。

【成績評価方法】

- 1 定期試験結果 2 提出物 3 小テスト 4 受講態度

【テキスト(教科書)・参考図書】

- 1 テキスト(教科書)
『保育の計画と評価を学ぶ ―保育の基盤の理解と実習への活用―』加藤敏子・岡田耕一 編、萌文書林
- 2 参考図書
『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省、チャイルド本社

【実務経験】

保育士・幼稚園教諭養成校(教授)

| | 回数 | 授業内容 | 各授業のねらい | 備考 |
|------------------|----|-----------------------|--|---------|
| 教 育 内 容 | 1 | 教育・保育課程の目的・目標・内容 | 近年の保育を取り巻く環境の変化を考え、さまざまな保育施設とその目標・役割を理解する。 | |
| | 2 | 保育所・幼稚園・認定こども園の活動内容 | さまざまな保育施設の位置づけと保育・教育活動について理解する。 | |
| | 3 | 保育所・幼稚園の歴史と保育・教育内容 | 保育所・幼稚園の歴史と保育・教育内容を理解し、保育所・幼稚園の課題を考える。 | グループワーク |
| | 4 | 保育の計画と評価の基本 | 保育の全体的な計画と指導計画を考え、全体的な計画を学ぶことの意義を理解する。 | |
| | 5 | 保育・教育活動のカリキュラム・マネジメント | 保育における計画と評価の重要性を理解し、保育の質を高めるための取組みを考える。 | |
| | 6 | 子どもの発達過程と指導計画 | 子どもの発達と保育のあり方を考え、0歳から6歳までの発達過程を理解する。 | |
| | 7 | 保育の全体的な計画 | 保育の全体的な計画における項目内容や、年間・月間の各計画について考える。 | |
| | 8 | 保育の全体的な計画作成の実際 | 保育における全体的な計画作成の留意点を理解し、全体的な保育計画表を作成する。 | |
| | 9 | 長期・短期の指導計画の実際 | 長期・短期の指導計画のそれぞれの作成上の留意事項を踏まえ、各指導計画を作成する。 | |
| | 10 | 保育の計画と評価 | 保育の内容と実践についての記録・省察および評価について理解する。 | |
| | 11 | 保育の指導案作成の実際 | 指導案作成に当たってのポイントを理解し、指導案を作成する。 | |
| | 12 | 指導案の作成と活動の企画 | 子どもの年齢に応じた遊びの企画について考え、指導案を作成する。 | グループワーク |
| | 13 | 保育の省察及び記録とカンファレンス | 保育の質の向上のために省察及び記録とカンファレンスが重要であることを理解する。 | |
| | 14 | 小学校への接続を意識した指導計画 | 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえ、幼小の接続を意識した指導計画を考える。 | |
| | 15 | 全体のまとめ | 保育活動の映像を通し保育計画と活動を理解し、これからの保育の課題について考える。 | グループワーク |

| 教科目名 | 単位数 | 総時間数 | 授業形態 | 必修・選択別 | 開講学年 | 開講時期 | 担当講師名 |
|--------|-----|------|------|--------|------|------|-------|
| 保育内容総論 | 1 | 30 | 演習 | 必修 | 1 | 前期 | 塩澤いほ江 |

【授業の概要】
 『すべての子どもの健やかな育ちの実現に向けて』保育所保育指針に基づき、子どもの成長や発達過程を見通し、子どもの実態に即した保育内容を学び、保育実践に繋げていく力を養います。
 エピソード、写真パワーポイント等を使用しての講義。グループワークも取り入れます。

【学習到達目標】
 1. 保育所保育指針に基づく保育の全体構造と保育内容を理解する。
 ①保育基本(保育園の役割、目標)の理解
 ②育みたい資質・能力。幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿を理解をする。
 2. 子どもの発達や生活に即した具体的な保育の展開を学ぶ。(子ども理解・計画・実践・修正の保育の往還を通して)

【成績評価方法】
 1. 筆記試験の結果
 2. 授業態度
 3. 出欠状況

【テキスト(教科書)・参考図書】
 1. テキスト(教科書)
 『改訂保育内容総論』－保育の構造と実践の探求－ 萌文書
 2 『保育所保育指針解説』(平成30年3月)厚生労働省 フレーバル館

【実務経験】
 保育所で保育士・保育園長として勤務していた経験あり。保育専門指導員(市所属)として、公立保育園、認定子ども園、地域型保育所の巡回指導の経験あり。

| 回数 | 授業内容 | 各授業のねらい | |
|----|--|---|--------------|
| 1 | オリエンテーション 授業内容予定 保育士としての心構え | 授業の目標・内容・進め方の確認等 | テキスト レジュメ |
| 2 | 保育所保育指針、教育要領、教育・保育要領の構造と保育内容の理解 ① | 保育所保育指針の変遷と保育の変遷 保育、教育、学校教育の基本(関連)を学ぶ。 | |
| 3 | 保育所保育指針、教育要領、教育・保育要領の構造と保育内容の理解 ② | 養護と教育の考え方。養護的に関わるねらいと内容。教育に関わるねらいと内容について学ぶ。 | |
| 4 | 子ども理解と保育内容の展開 ① 基本となる子供の主体性 | 養護と教育の一体性 子どもの主体性について | エピソード |
| 5 | 子どもの理解と保育内容の展開 ② 乳児保育について・子どもの発達に即した保育 | 発達の特性と発達過程について | |
| 6 | 子どもの理解と保育内容の展開 ③ 保育計画の全体構造と展開(PDCAサイクル) | 指導計画の構造と展開について学ぶ。 (全体計画→長期計画→短期計画) | エピソード |
| 7 | 子どもの理解と保育内容の展開 ④ 子どもの姿の捉え(子ども理解・見ること) 保育の往還 | 子どもを見る(観察・実態把握)ことについて学ぶ。 | |
| 8 | 子どもの理解と保育内容の展開 ⑤ 乳児保育について・子どもの発達に即した保育 | 乳児保育についての保育の在り方 | 形式サンプル |
| 9 | 子どもの理解と保育内容の展開 ⑥ ●環境を通して行う保育 ●主体性を尊重 | エピソードを通して学ぶ。 | エピソード 演習 |
| 10 | 子どもの理解と保育内容の展開 ⑦ 保育・教育の内容(5領域)の相互の関連性 | 遊びや生活の中での重なりと相互の関連性について学ぶ | |
| 11 | 子ども理解と保育内容の展開 ⑧ 施設の役割における生活の流れ | 保育所、幼稚園、認定こども園の構造と過ごし方について知る。 | |
| 12 | 子ども理解と保育内容の展開 ⑨ 子どもの育ちを支える基本的な記録 | 出席簿、健康に関わる記録、保育日誌。 小学校への接続資料の送付について学ぶ。 | |
| 13 | 保育内容総論 重要個所の授業のまとめ | 保育内容総論 前期講義のまとめ | |
| 14 | 保育内容総論 筆記試験 | 保育内容総論 授業のまとめ 筆記試験 | ↓ |
| 15 | 全体のまとめ | 授業全体のまとめ | |

| 教科目名 | 単位数 | 総時間数 | 授業形態 | 必修・選択別 | 開講学年 | 開講時期 | 担当講師名 |
|------|-----|------|------|--------|------|------|-------|
| 健康 | 1 | 30 | 演習 | 必修 | 1 | 後期 | 塩澤いほ江 |

【授業の概要】
 子どもの健康な心と体の育ちと、子ども自らが健康で安全な生活を作りだしていきける力を養うための適切な援助ができるよう、心身の健康に関する領域『健康』について学びます。
 心身の発達を促し、興味や関心を持ち、意欲的に取り組める遊びや活動について学び、保育実践につなげる力を身につけていきます(エピソード、写真、パワーポイント等を使用する講義、グループワークも取り入れます)。

【学習到達目標】
 1. 保育内容(教育)の構成(5領域)を理解する。 2. 養護と領域「健康」のねらいと内容を理解する。
 3. 発達に即した遊びや活動の援助について学び援助に繋げる 4. 健康の管理と安全教育について学ぶ。
 5. 子どもの発達に即した、健康と安全な生活に必要な習慣や態度の援助について学ぶ。

【成績評価方法】
 1. 提出レポートの評価 2. 授業態度 3. 出欠状況

【テキスト(教科書)・参考図書】
 1. テキスト(教科書)
 『保育内容 健康 第3版』 民秋言 小田豊 武藤隆 編集委員 花井忠征 野中壽子 編集 北大路出版
 2 『保育所保育指針解』(平成30年3月)厚生労働省 フレーベル館

【実務経験】
 保育所で保育士・保育園長として勤務していた経験あり。保育専門指導員(市所属)として、公立保育園、認定子ども園、地域型保育所の巡回指導の経験あり、県福祉大学校非常勤講師

| 回数 | 授業内容 | 各授業のねらい | |
|----|---|---|--------------|
| 1 | 「健康」の目指すもの 保育・教育の基本 | 養護と教育(領域「健康」について基本的な考え方を学ぶ。保育所保育指針に於ける養護と教育のねらい | テキスト レジュメ |
| 2 | 乳幼児の健康について 健康の定義・保育者の役割 | 保育の基本的原則を学ぶ 健康をめぐる最近の問題 健康状態の把握 | 課題 |
| 3 | 養護と教育「健康」の理解① 心と体の育ちについて 運動指導のポイント | 心と体の育ちについて学ぶ 運動能力の現状と課題と援助について | |
| 4 | 養護と教育「健康」の理解② 幼児期に生まれる生活習慣の形成について | 生活習慣の自立と指導について 睡眠、排泄、衣服の着脱、清潔習慣の確立 | 演習 |
| 5 | 養護と教育「健康」の理解③ 生活習慣の形成・食事について | 生活習慣の自立と指導について 幼児の食生活 保育所の食事について | |
| 6 | 養護と教育「健康」の理解④ 安全管理と安全教育について | 幼児の健康と安全についての実態 安全管理と安全教育について | |
| 7 | 乳幼児の遊びの発達と健康について 遊びとは何か 遊びの発達過程について | 発達過程について 未満の頃の遊びの展開について学ぶ | エピソード |
| 8 | 乳幼児の遊びの発達と健康について 遊びを豊かにする保育者の役割 | 遊びを豊かにするには 遊びの工夫について | 演習 |
| 9 | 乳幼児の遊びの発達と健康について 遊びの楽しさを考えよう(伝承遊びを通して) | 伝承遊びについて学ぶ実践してみよう | 演習 |
| 10 | 保育士としての力量を高める ① | 子どもの遊びを広げる=保育のスキルアップ 特技を生かそう ① | 演習 |
| 11 | 養護と教育「健康」の理解 保育所での行事食について | 伝統食・保育所の行事食(五目おこわ) おこわを蒸かす、誕生会のセレモニーの準備 | 演習 |
| 12 | 保育所での行事食(祝い膳)について | 調理体験、おこわを蒸かす 行事(誕生会)セレモニーの予備体験 | |
| 13 | 保育所での行事食(祝い膳)について | 調理体験、おこわを蒸かす 行事(誕生会)セレモニーの予備体験 | 演習 調理実習 |
| 14 | 保育士としての力量を高める ② 子どもの育ちを支える基本的な記録 | 出席簿、健康に関わる記録、保育日誌、 小学校への接続資料の送付について学ぶ | 演習 |
| 15 | 全体のまとめ | 一人ひとりの学びの発表を通して健康の授業に 対する総まとめをする | |

| 教科目名 | 単位数 | 総時間数 | 授業形態 | 必修・選択別 | 開講学年 | 開講時期 | 担当講師名 |
|------|-----|------|------|--------|------|------|-------|
| 人間関係 | 1 | 30 | 演習 | 必修 | 1 | 前期 | 山藤 宏子 |

【授業の概要】
 現代の乳幼児の人間関係の育ちに影響を与えている社会的要因について理解し、保育で保障すべき保育内容に関する知識を身につける。特に、身体的発達・心理的発達の視点から学び、理論と実践を関連させて理解を深める。

【学習到達目標】
 1. 乳幼児期における教育の基本を踏まえ、領域「人間関係」の意義を理解する。
 2. 乳幼児期の人間関係の発達について、様々な視点から理論的・実践的に考察を深める。
 3. 保育者として望ましい関わりの基礎を理解し、具体的な配慮や援助を学ぶ。

【成績評価方法】
 授業への参加度・演習 40%
 課題提出10% 定期試験 50%

【テキスト(教科書)・参考図書】
 1 テキスト(教科書)
 保育内容「人間関係」第2版 咲間まり子編(みらい)
 2 参考図書
 はじめまして、子どもの権利条約ワークブック 川名はつ子監修(東海教育研究所)

【実務経験】
 保育士・東京都養育家庭への研修・保育者養成校講師

| | 回数 | 授業内容 | 各授業のねらい | 備考 |
|----|------------------|--------------------|---|-----------------------|
| | 教 育 内 容 | 1 | オリエンテーション 領域「人間関係」とは | 領域「人間関係」の位置づけについて理解する |
| 2 | | 現代社会の子どもを取り巻く環境 | 乳幼児を取り巻く環境の現状と保育者に求められるものを理解する | |
| 3 | | 胎児期から始まる母子関係 | 新生児が持つ生きる力と母子関係について理解する | |
| 4 | | 乳児期の発達と人間関係の芽生 | 運動、言語発達を介した養育者との関係構築について理解する | |
| 5 | | 乳児期の発達と信頼できる関係の形成 | アタッチメント形成と人間関係の発達を理解する | |
| 6 | | 幼児期の発達と自我、自立 | 自我の芽生と自己主張と自己抑制について理解する | |
| 7 | | 幼児期の発達と他者との関係の形成 | 他者への意識と道徳性の獲得について理解する | |
| 8 | | 遊びと人間関係の発達 | 子どもにとっての遊びの意味を理解する | |
| 9 | | 人間関係を形成する遊び | 人間関係を深める遊びについての知識を広げる | |
| 10 | | 環境構成と人の関わり | 人的環境としての保育者の役割を理解する | |
| 11 | | 保育者に求められる自立援助の視点 | 自立に向けた援助について思考を深める | |
| 12 | | 保育者に求められる協同援助の視点 | 協同に向けた援助についての思考を深める | |
| 13 | | 保育者に求められる保護者支援の視点 | 保護者に対する援助についての思考を深める | |
| 14 | | さまざまな環境で育つ子どもへの保育 | 支援を必要とする子ども、外国につながる子どもたちへの関わりと地域の役割について思考を深める | |
| 15 | | 「人間関係」の指導計画 まとめ | 領域「人間関係」を理解した指導計画の作成ができる | |

| 教科目名 | 単位数 | 総時間数 | 授業形態 | 必修・選択別 | 開講学年 | 開講時期 | 担当講師名 |
|------|-----|------|------|--------|------|------|-------|
| 環 境 | 1 | 30 | 演習 | 必修 | 2 | 前期 | 寺島 明子 |

【授業の概要】
 保育の現場における活動や環境構成とその意図について学びます。保育所保育指針の領域「環境」について理解すると共に、事例をもとに、子どもたちが活動するにあたって構成する環境やその活用方法、更に保育者としての援助方法について学んでいきます。

【学習到達目標】
 未来を担う子どもたちが心身ともに健康で心豊かに育つために、保育に携わる者は、なにをどう自覚し心がけなければならないか。子どもを取り巻く実情を知り、保育内容を充実する上での配慮と、よりよい環境構成ができるよう実践的な力を習得する。

【成績評価方法】
 1 筆記試験
 2 授業態度・欠出席状況

【テキスト(教科書)・参考図書】
 1 テキスト(教科書)
 『コンパクト版 保育内容シリーズ③ 環境』 谷田貝公昭 大沢祐・野末晃秀(一藝社)

【実務経験】
 保育士 幼稚園教諭 保育園長 保育士養成校教員 自然保育主宰

| | 回数 | 授業内容 | 各授業のねらい | 備考 |
|----|------------------|---------------------------|------------------------------|----------------|
| | 教 育 内 容 | 1 | 保育内容「環境」の意義 | 保育「環境」について理解する |
| 2 | | 保育内容「環境」の概要 | 領域「環境」について理解を深める | |
| 3 | | 「環境」をより良く理解するために-各学問の知見から | 「環境」について各学問の知見から考えてみる | |
| 4 | | 子どもの発達と環境 | 子どもの発達が環境からどのように影響を受けるのか理解する | |
| 5 | | 子どもと環境との関わり | 子どもが環境と関わりどのように成長するのか理解する | |
| 6 | | 自然に親しむ-生命の尊さ | 自然に親しむことで生命の尊さについて考える | |
| 7 | | 数量や文字などへの興味 | 子どもが数量や文字に興味をもち育つことを理解する | |
| 8 | | 生活と関係する行事・文化 | 子どもが成長するための行事・文化について理解する | |
| 9 | | 子どもを取り巻く情報機器 | 子どもの環境の情報機器の在り方について考える | |
| 10 | | 指導計画と評価-「環境」の視点から | 子どもの指導計画と評価の仕方を理解する | |
| 11 | | 0～2歳児の保育と環境 | 0～2歳児における環境構成の在り方について考える | |
| 12 | | 3～6歳児の保育と環境 | 3～6歳児における環境構成の在り方について考える | |
| 13 | | 小学校との連携 | 小学校との連携の在り方を理解する | |
| 14 | | 特別な支援を必要とする子どもと領域「環境」 | 特別な支援を必要とすることを理解する | |
| 15 | | 現代社会に内包する環境問題 | 子どもたちの環境問題について考える | |

| 教科目名 | 単位数 | 総時間数 | 授業形態 | 必修・選択別 | 開講学年 | 開講時期 | 担当講師名 |
|------|-----|------|------|--------|------|------|--------|
| 言葉 | 1 | 30 | 演習 | 必修 | 1 | 前期 | 矢崎 恵実子 |

【授業の概要】
 言葉の発達と人との関わり方を理解することで、言語環境としての保育士の役割を実践的に学ぶ。
 言葉に対する感覚を「絵本」等児童文化にふれていくことで豊かなものにしていく。

【学習到達目標】
 1 乳幼児期における言葉の発達を学び、乳幼児にとって言葉とは 伝えるとは何かを理解する。
 2 豊かな精神活動(五感を育てる)を促し、言葉を育てる環境としての保育(保育士)の役割と援助について学ぶ
 3 言葉を育てる保育技術(絵本の読み聞かせ等児童文化の伝達法)を身につけることで 実践にむけた意欲を高める。
 4 乳幼児期に出会わせたい「絵本」等児童文化を実践的に学ぶ。

【成績評価方法】
 1 筆記試験・演習
 2 各種提出物
 3 授業態度、出欠席状況

【テキスト(教科書)・参考図書】
 1 テキスト(教科書)
 新時代の保育双書 保育内容 ことば 第3版 赤羽根有里子・鈴木穂浪編(みらい)
 2 参考図書 えほんのせかいこどものせかい 松岡享子(文春文庫)、絵本でひらく心とことば(かもがわ出版)

【実務経験】
 長野県総合教育センター(学校図書館専門主事)、小学校・養護学校(教諭)、図書館(司書)

| | 回数 | 授業内容 | 各授業のねらい | 備考 |
|---|----|---|---|----------------------|
| 教 | 1 | 保育内容 領域「言葉」について 講義・テキストの概要説明 | ①保育内容と領域『言葉』の位置づけ ②自らの言葉体験を振り返る・自己紹介ミニ本作成 ③ビブリオトーク(本を語る)の基本 | |
| | 2 | 「ことば」を育てる その1 ことばの発達過程の基本を知る 『えほんのせかい こどものせかい』からのメッセージ 松岡享子氏から学ぶ | ①ことばの発達の道筋を知る ②松岡享子氏の足跡とその願いを知ることで、「絵本」を 保育士として読むとはどういうことなのか考える ③ミニ本で伝える「自分」 | |
| | 3 | 「ことば」を育てる その2 ことばの発達を絵本で学ぶ 絵本の見方と選び方 絵本が届けられるまで、本の構造 読み聞かせの基本 | ①人との関わりの中での「ことば」の育ちを知る。 絵本の特性とことばの発達と聴く力 ②読み聞かせの基本を知る ③ビブリオトーク 自分のことばで本を語る | |
| | 4 | 「ことば」を育てるその3 ことばの役割 乳幼児期 愛着を育てる 乳児に適した絵本を読む 絵本を保育士として読んでみる(年少むき) 読み聞かせ演習(以後毎回) | ①一人一人の育ち、表現する方法をうけとめる保育士 ②ビブリオトーク:自分のことばで語る、聴き合う ③読み聞かせ演習 ④「子ども」の視点で絵本を読みあう | |
| 育 | 5 | 「ことば」を育てるその4 保育者のかかわり 絵本を保育士として読んでみる(年中、年長むき) 児童文化で育てることば ①昔話、語り ことばの文化 詩を読む | ①「本」が出版されるまでの過程をしる ②読み聞かせ(演習・実習) ③語られることばと聴く力(昔話は残酷か?!) | 読み聞かせ演習 『お話のろうそく』 |
| | 6 | 児童文化で育てることば ②ことばであそぶ わらべうた、絵かき歌、和歌、短歌、カルタ、なぞなぞ、 落語、講談 | ①ことばと生きる力 ②ことばの獲得を支える条件と環境 ③ことばであそぶ、音、響き、リズムで表現する | 読み聞かせ演習 |
| 内 | 7 | ことばの発達 言葉の『胎児期』『誕生期』『生活化』 児童文化で育てることば ③紙芝居 | ①絵本の力を知る。絵と言葉が語る“ものがたり”聴く力 ②紙芝居演習 | 読み聞かせ演習 |
| | 8 | ことばの発達 児童文化で育てることば ④パネルシアター・エプロン シアター、パペット、ペープサート | ①信頼関係と原初的コミュニケーション ②気持ちや感情の共有 ③パネルシアター等の演習 | 読み聞かせ演習 |
| | 9 | ことばの発達まとめ 小学校との連携・文字を知る 児童文化で育てることば ⑤幼年文学 様々な絵本論 | ①子どもの発達における幼年文学の位置づけ 幼年文学を読む ②様々な絵本論を知り、絵本の新しい価値を知る | 読み聞かせ演習 |
| | 10 | ことばの発達を支援するための配慮その1 視覚支援、言語環境 科学的絵本を知る | ①どの子にもその子のことばを その子の絵本を インリアルアプローチ ②科学的な視点を育てる | 読み聞かせ演習 |
| | 11 | ことばの発達を支援するための配慮その2 保護者とかかわり いのちの絵本を知る | ①言葉の障害や遅れ、保育における配慮 ②絵本にえがかれた「命」、生死を知る | 読み聞かせ演習 『クシュラの奇跡』 |
| | 12 | ことばをとりまく諸問題・領域「言葉」のまとめ 保育の中での絵本の位置づけ 体験、活動、あそびにつなげる | ①子どもをとりまくメディア環境について考える ②保育現場での取り入れ方を考える | 読み聞かせ演習 |
| | 13 | 「絵本」で語りあう・読む 言語環境としての保育士の在り方を考える | 絵本でビブリオトークをすることで、お互いの読み 取り方を交流し読み深める | 読み聞かせ演習 |
| | 14 | 学習評価 制作活動 | ①筆記試験 ②MY絵本紹介カード、自己紹介カード作成 | 50冊の本等 レポート提出 |
| | 15 | 学習評価講評:子どものことばを育てる 本講義のまとめ | ①学習評価について講評 ②リズム・音・豊かな言語環境をうみだす | |

| 教科目名 | 単位数 | 総時間数 | 授業形態 | 必修・選択別 | 開講学年 | 開講時期 | 担当講師名 |
|------|-----|------|------|--------|------|------|-------|
| 表現 I | 1 | 30 | 演習 | 必修 | 1年 | 後期 | 中村 弘美 |

【授業の概要】
 子どもの「表現」とは何か、子どもとともに豊かな造形表現を楽しむためにはどのような活動や環境設定、援助をしたらよいか、演習やグループワークを通し必要な基礎的知識と技術を学ぶ。

【学習到達目標】
 1 子どもの「表現」とは何か、子どもの「表現」において保育者の役割とは何かを理解する。
 2 保育の場における造形活動で想定される様々な場面で、子どもに対しての適切な援助の方法を理解する。

【成績評価方法】
 1 作品
 2 レポート
 3 授業態度・出席状況

【テキスト(教科書)・参考図書】
 1 テキスト(教科書)
 保育内容 領域「表現」日々わくわくを生きる子どもの表現 堂本真美子編 わかば社
 2 参考図書
 「保育をひらく造形表現」 槇英子 萌文書林

【実務経験】
 保育士、保育園長

| 回数 | 授業内容 | 各授業のねらい | 備考 |
|----|------------------------------|--|---------|
| 1 | オリエンテーション 子どもの「表現」とは何か | ・授業の進め方を知る ・表現と造形表現について学ぶ | |
| 2 | 紙を使った制作① くるくると絵が変わるカードの制作 | ・制作方法を知る ・制作したカードを使い表現を体験する | |
| 3 | 折り紙の指導実践① | ・折り紙の技法を知る ・指導実践から学び合う わかりやすい伝え方とは 指導実践からお互いの良さを学び合う | グループワーク |
| 4 | 折り紙の指導実践② | | |
| 5 | 紙を使った制作② 立体物の作成 | ・立体物の作り方や技法の理解 | |
| 6 | 廃材をつかった制作 | ・ごっこ遊びについて考える ・みんなで「テーマパーク」をつくろう ・廃材を使ってごっこ遊びに必要なものを作る ・あそびかたのルールを考える ・みんなで遊ぼう | グループワーク |
| 7 | 廃材をつかった制作 | | |
| 8 | 廃材をつかった制作 | | |
| 9 | ごっこ遊びを楽しむ | | |
| 10 | 指人形で遊ぼう | ・紙で指人形を作って演じてみよう | |
| 11 | 色で遊ぶ | ・色を使って、表現することを体験する | |
| 12 | ペープサートを使って表現する | ・ペープサートを作って表現する | グループワーク |
| 13 | ペープサートを使って表現する | | |
| 14 | グループで発表 | | |
| 15 | まとめ | 全体のまとめ | |

| 教科目名 | 単位数 | 総時間数 | 授業形態 | 必修・選択別 | 開講学年 | 開講時期 | 担当講師名 |
|--------|-----|------|------|--------|------|------|-------|
| 身体表現 I | 1 | 30 | 演習 | 必修 | 2 | 前期 | 柳澤 友希 |

【授業の概要】
 講義と演習を通して身体表現の方法を知り、幼児期の運動あそびの重要性を知る。実際に保育実習室の子どもたちと一緒に体験的に学ぶ。
 運動指導の映像も利用する。

【学習到達目標】
 1 すべての子どもたちが運動好きになる知識と技術を修得する。
 2 子どもの年齢に合わせた指導を実際に見ることで、声掛けや指導法の要点を知る。
 3 保育士も子ども自身も運動を楽しみと感じ、運動経験の積み重ねが健康な心身を育てることを自覚する。

【成績評価方法】
 1 授業出席、授業態度
 2 筆記試験

【テキスト(教科書)・参考図書】
 1 テキスト(教科書)
 「0～5歳児の発達に合った楽しい！運動遊び」 柳沢秋孝・柳沢友希著 ナツメ社
 「0、1、2歳児の発達に合った楽しい運動遊び」 柳沢友希著 ナツメ社
 2 参考図書

【実務経験】
 公立保育所で保育士、運動保育士として県内の保育園・幼稚園で子どもたち及び保育者に指導
 放課後等デイサービス、認定こども園での運動指導

| | 回数 | 授業内容 | 各授業のねらい | 備考 |
|---|----|--------------------------------|------------------------------------|----|
| 教 | 1 | 授業ガイダンス | 授業説明 | |
| | 2 | 柳沢運動プログラムについて | どうしたら運動を好きな子どもになるか。講義 | |
| | 3 | 同上 | 幼児期の全身運動がどのように脳と心を育てるか。講義 | |
| 育 | 4 | 指導見学・実習(年少1回目) 動物(カード)の模倣遊び | 視覚教材を使いながら、体を動かす楽しさを知る。 | |
| | 5 | 同上 (年中1回目) 線路あそび | 身体を調節して動かす楽しさを知り、複雑な動きにつなげる。 | |
| | 6 | 同上 (年長1回目) くもの巣 | くもの巣を使い、ゆっくり正確な体の動かし方を知る。 | |
| | 7 | 柔軟体操・基本運動(支持力・懸垂力・跳躍力) | 動物に変身して、基礎となる正しい動きを知る。線から線へ。 | |
| 内 | 8 | 指導見学・実習(年少2回目) 引越しあそび | 基礎の動きを知り、動物あそびが簡単で楽しいと知る。 | |
| | 9 | 同上 (年中2回目) へびあそび | 動きの中でバランスをとりながら、巧みな動きを身につける。 | |
| | 10 | 同上 (年長2回目) 線から線へ | 空間認知力を養う。 | |
| 容 | 11 | 指導見学・実習(年少3回目) マット山 | マットの山を使うことで、より腕への負荷をかけ、支持力を高める。 | |
| | 12 | 同上 (年中3回目) フープあそび | ルールを理解し、すばやく判断して対応することができる。 | |
| | 13 | 同上 (年長3回目) じゃんけんあそび | あそびの中で考えながら動ける体づくりをする。 | |
| | 14 | 授業の振り返り | 子どもの発達に合わせた指導を振り返り、要点を確認する。 | |
| | 15 | まとめ | 授業のまとめ。子どもの発達に合わせた指導を振り返り、要点を確認する。 | |

| 教科目名 | 単位数 | 総時間数 | 授業形態 | 必修・選択別 | 開講学年 | 開講時期 | 担当講師名 |
|--------|-----|------|------|--------|------|------|-------|
| 音楽表現 I | 1 | 30 | 演習 | 必修 | 1 | 前期 | 松浦亜紀子 |

【授業の概要】
 幼児の表現活動の特性や音楽表現の意義と目的について理解し、発達に即した音楽表現活動を楽しむために必要な基礎的知識や技能を学びます。
 この授業では、歌唱表現を中心に、音楽理論、ソルフェージュなど音楽の基礎を学習し、音楽的能力や感性を磨き、様々な音楽の活動や音楽表現指導のロールプレイを行う中で学び合います。

- 【学習到達目標】**
- 1 音楽表現活動を楽しむために必要な音楽の基礎的知識や技能を習得する。
 - 2 幼児の表現活動の特性や音楽表現の意義と目的について理解する。
 - 3 幼児音楽教育に必要な簡易伴奏法、歌唱指導法、音楽表現法などを習得する。
 - 4 様々な音楽経験を通して、音楽表現活動の楽しさと喜びを感受する。

- 【成績評価方法】**
- 1 楽典知識等の定着をみる筆記試験
 - 2 演習・レポート
 - 3 授業態度
 - 4 出席状況

- 【テキスト(教科書)・参考図書】**
- 1 テキスト(教科書)
改訂版 最新・幼児の音楽教育 井口 太 編(朝日出版社)
 - 2 参考図書
こどものうた200 日本童謡唱歌全集 たのしいうた

【実務経験】

| | 回数 | 授業内容 | 各授業のねらい | 備考 |
|---|----|--|---|-----------------------|
| 教 | 1 | オリエンテーション 幼児の発達と音楽 | 音楽表現 I のねらい、学習の進め方を理解する 幼児の発達と音楽について知る | |
| | 2 | ①定例演習(リズム遊び・手遊び・弾き歌い) ②音楽的能力の発達 ③楽典の基礎 ④演習 わらべうた | ①校歌を始めとする愛唱歌を増やす 毎時間5~6曲を目安に童謡・唱歌を歌いレパートリーを増やす ②幼児の音楽的能力の発達について理解する ③読譜、譜表、音名、音符と休符を理解する | 手遊び4人 弾き歌い4人ずつ |
| | 3 | ①定例演習(リズム遊び・手遊び・弾き歌い) ②歌声づくり ③楽典の基礎 ④演習 わらべうた | ①毎時間の短時間演習により、幼児を想定した音楽活動の技術を学び合う ②発声について基本的な技能を身につける ③小節と拍子について理解する ④わらべうたと手遊びの演習 | ①②の活動については、基本的に毎時間行う。 |
| | 4 | ③楽典の基礎 ④演習 わらべうた | ③音程について理解する ④わらべうたについて楽しさやよさを感じる | |
| 育 | 5 | ③楽典の基礎 ④演習 ボディパーカッション | ③音階と調について理解する ④オルフの音楽教育を知る | |
| | 6 | ③楽典の基礎 ④演習 ボディパーカッション | ③楽語・記号・略語について理解する ④リズム基礎練習 | |
| | 7 | ③楽典の基礎 ④演習 ボディパーカッション | ③調・移調について理解する ④リズム模倣 | |
| | 8 | ③楽典の基礎 ④演習 ボディパーカッション | ③和音について理解する ④グループ発表 | |
| 内 | 9 | ③ソルフェージュ ④演習 音楽づくり・器楽 | ③ ④移調の理解練習問題 | 課題 |
| | 10 | ③ソルフェージュ ④演習 音楽づくり・器楽 | ③和音の基礎に加え、コードネームについて理解する ④指定されたコードを転回させて演奏できるようにする | コードに関する資料 |
| | 11 | ③ソルフェージュ ④演習 音楽づくり・器楽 | ③カデンツについての理解と演奏 ④指定されたカデンツを演奏する | |
| | 12 | ③ソルフェージュ ④演習 音楽づくり・器楽 | ③合唱曲・ピアノ練習曲を通して、標語を理解する ④カデンツを使った伴奏づくり(ハ長調) | |
| | 13 | ③ソルフェージュ ④演習 音楽づくり・器楽 | ③合唱曲・ピアノ練習曲を通して、記号を理解する ④カデンツを使った伴奏づくり(ハ長調) | レポート |
| | 14 | ③楽典のまとめ 定期試験 | ③定期試験(筆記) | 定期試験 |
| | 15 | まとめ | ③授業全体のまとめ | |

令和6年度 保育学科 講義概要

| 教科目名 | 単位数 | 総時間数 | 授業形態 | 必修・選択別 | 開講学年 | 開講時期 | 担当講師名 |
|--|--------------|-----------------------------|-------------|---------------------------------|------|------|--------|
| 造形表現 | 1 | 30 | 演習 | 必修 | 1 | 前期 | 伊藤 めぐみ |
| 【授業の概要】 | | | | | | | |
| 講義と演習を併用した授業を通して、様々な造形表現の方法を知り、子どもの表現遊びを豊かに育む保育の実際について体験的に学ぶ。 | | | | | | | |
| 【学習到達目標】 | | | | | | | |
| 1 子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識と技術を実践的に習得する。 2 造形表現について理解し、造形活動で想定される様々な場面において適切な援助ができる力を身につける。 | | | | | | | |
| 【成績評価方法】 | | | | | | | |
| 1 制作した作品等 2 レポート 3 授業態度・出席状況 | | | | | | | |
| 【テキスト(教科書)・参考図書】 | | | | | | | |
| 1 テキスト(教科書) 保育をひらく造形表現 / 榎 英子 / 萌文書林 2 参考図書 | | | | | | | |
| 【実務経験】 | | | | | | | |
| 障がい児者施設、福祉大保育園(保育士)で勤務経験あり。 | | | | | | | |
| 教 育 内 容 | 回数 | 授業内容 | | 各授業のねらい | | | 備考 |
| | 1 | オリエンテーション | | 授業の目的・進め方等の確認をする | | | |
| | 2 | 造形表現の意義 感性をみがく:自然発見ビンゴ作り | | 保育における造形表現の意味と意義 『表現を育む人』の理解 | | | |
| | 3 | 学校周辺を散策(草花の収集) | | 身近な自然や色・形に親しむ (収集した草花の押し花作り) | | | |
| | 4 | フロッターージュ | | 環境とのかかわりを深め、価値・発見に気づく | | | |
| | 5 | 新聞紙・チラシ・折り紙等の活用 | | 紙にかかわる技を知り表現の可能性を広げる | | | |
| | 6 | 厚紙を使つての制作(パタパタ作り) | | 同 上 | | | |
| | 7 | 同 上 | | 同 上 | | | |
| | 8 | 同 上 | | 同 上 | | | |
| | 9 | 切り紙(形の発見) | | 造形を楽しむことへの理解(心のままに表す) | | | |
| | 10 | 同 上 | | 同 上 | | | |
| | 11 | 同 上 | | 同 上 | | | |
| | 12 | 廃材(牛乳パック等)を使つての制作 | | 生活素材の、造形材料としての可能性を知る | | | |
| | 13 | 同 上 | | 同 上 | | | |
| | 14 | 上記の制作物の発表 | | 同 上 | | | |
| 15 | 保育における造形表現とは | | 学んできたことのまとめ | | | | |

令和6年度 保育学科 講義概要

| 教科目名 | 単位数 | 総時間数 | 授業形態 | 必修・選択別 | 開講学年 | 開講時期 | 担当講師名 |
|--|-----|----------------------------------|-------------|----------------------------------|------|------|--------|
| 言語表現 | 1 | 30 | 演習 | 必修 | 2 | 後期 | 伊藤 めぐみ |
| 【授業の概要】 | | | | | | | |
| 講義と演習(実習)を併用した授業を通して、児童文化財を知り、子どもの言葉を豊かに育む保育の実際について学ぶ。 紙芝居・パネルシアター・絵本などの保育材の制作や実演を通して実践的な保育技術を身につける。 | | | | | | | |
| 【学習到達目標】 | | | | | | | |
| 1 児童文化とは何か、児童文化財とことば、子どものことばを豊かに育む保育者の役割を学び、子どもの遊びを豊かにするために必要な知識や技術を習得する。 2 言語表現に係わる保育材の制作、実演を通して、具体的な保育技術を身につける。 | | | | | | | |
| 【成績評価方法】 | | | | | | | |
| 1 レポート 2 実技発表 3 授業態度及び出席状況 | | | | | | | |
| 【テキスト(教科書)・参考図書】 | | | | | | | |
| 1 テキスト(教科書) 保育者のための言語表現技術 / 降幡和夫編著 / 萌文書林 2 参考図書 | | | | | | | |
| 【実務経験】 | | | | | | | |
| 障がい児者施設、福祉大保育園(保育士)で勤務経験あり。 | | | | | | | |
| 教 育 内 容 | 回数 | 授業内容 | | 各授業のねらい | | | 備考 |
| | 1 | オリエンテーション 児童文化財と言語表現 | | 授業の概要を理解する 保育の中で活用される児童文化財を知る | | | |
| | 2 | スケッチブックシアター制作① | | 保育現場で手軽に活用できる児童文化財の制作 | | | |
| | 3 | スケッチブックシアター制作② | | 同 上 | | | |
| | 4 | スケッチブックシアター制作③ | | 同 上 | | | |
| | 5 | スケッチブックシアター制作④ | | 同 上 | | | |
| | 6 | スケッチブックシアター制作⑤ | | 同 上 | | | |
| | 7 | レポート作成 | | 絵本『ぐりとぐら』、『ちびくろさんぼ』について 考察する | | | |
| | 8 | パネルシアターの制作① | | 絵人形の作り方等について | | | |
| | 9 | パネルシアターの制作② | | 絵人形のしかけや工夫等について | | | |
| | 10 | パネルシアターの制作③ | | 絵人形の貼り方や演じ方等について | | | |
| | 11 | 児童文化財のまとめ | | (レポート試験) | | | |
| | 12 | 保育実技個人発表 ① (選択した保育実技の一つを発表する) | | (実技試験) | | | |
| | 13 | 保育実技個人発表 ② | | (実技試験) | | | |
| | 14 | 保育実技個人発表 ③ | | (実技試験) | | | |
| 15 | まとめ | | 学んできたことのまとめ | | | | |

| 教科目名 | 単位数 | 総時間数 | 授業形態 | 必修・選択別 | 開講学年 | 開講時期 | 担当講師名 |
|--|-----|-----------------------------------|------|---|------|------|-------|
| 乳児保育 I | 2 | 30 | 講義 | 必修 | 1 | 前期 | 根木 志保 |
| 【授業の概要】 乳児保育の理念や現状、保育の内容、心身の発達など基礎的な事項について学びます。 講義形式のほかグループワーク、体験などを利用した授業を行います。 | | | | | | | |
| 【学習到達目標】 1 乳児保育の意義・目的と制度や変遷、乳児保育の現状と課題について理解する。 2 乳児および3歳未満児の心身の発達を理解して、適切な養育・保育の方法を習得する。 3 養護および教育の一体性をふまえ3歳未満児の体験や遊び・生活の援助・環境について具体的に学ぶ。 | | | | | | | |
| 【成績評価方法】 筆記試験結果、提出物及び授業態度等を勘案した総合評価 | | | | | | | |
| 【テキスト(教科書)・参考図書】 1 テキスト(教科書) 見る・考える・創り出す 乳児保育 I・II 天野珠路・増田まゆみ・迫田圭子他編 (萌文書林) 2 参考図書 保育所保育指針・育ちの理解と指導計画 | | | | | | | |
| 【実務経験】 公立保育所(保育士・園長) | | | | | | | |
| 教 育 内 容 | 回数 | 授業内容 | | 各授業のねらい | | | 備考 |
| | 1 | 乳児保育の基本とは・乳幼児を理解すること | | 乳児保育を学ぶことは・具体的なイメージをもつ | | | |
| | 2 | 乳児保育のあゆみと現状・子ども子育てをめぐる状況 | | 乳児保育のあゆみ、子育て状況をとおして乳児保育の必要性を理解する | | | |
| | 3 | 保育所保育指針と乳児保育・保育の計画 | | 保育計画がなぜ大切か、乳児保育独自の計画の視点を学ぶ。 | | | |
| | 4 | 1～9期の区分別にみる乳児の理解 6か月未満児(前期・後期) | | 9つの期の区分で一人ひとりの乳児の発達過程を理解する。乳児保育における「養護」(生活の援助)「教育」(体験と遊び)を理解する。 | | | |
| | 5 | 6か月から1歳3か月未満児(前期・中期・後期) | | | | | |
| | 6 | 1歳3か月から2歳未満児(前期・後期) 2歳児(前期・後期) | | | | | |
| | 7 | | | 生活の流れのなかで一人ひとりの乳児に対する保育の内容をもとに援助していく、保育者の基本的な考え方や姿勢を学ぶ。 | | | |
| | 8 | 実践例にみる援助の実際 | | | | | |
| | 9 | | | | | | |
| | 10 | 乳幼児期の心身の発達 | | 生命誕生までの神秘、運動機能の発達の方向性、認知の発達、人間関係、言葉とコミュニケーションの発達、自己意識の発達を学ぶ。 | | | |
| | 11 | | | | | | |
| | 12 | これまでのまとめ | | これまでの学習内容のまとめ | | | |
| | 13 | 子どもの発達と排泄、食事 | | 指針から排泄、食事の援助の基本を学ぶ。排泄、食事の援助における養護と教育の一体性のイメージをつかむ。 | | | |
| | 14 | 乳児保育の演習に向けた理解と課題 | | 演習課題を具体的にきめ、主体的に準備をする。 | | | |
| 15 | | | | | | | |

| 教科目名 | 単位数 | 総時間数 | 授業形態 | 必修・選択別 | 開講学年 | 開講時期 | 担当講師名 |
|-------|-----|------|------|--------|------|------|-------|
| 乳児保育Ⅱ | 1 | 30 | 演習 | 必修 | 1 | 後期 | 根木 志保 |

【授業の概要】

演習を通して乳児にふれ、具体的な保育の方法や環境構成を学び、保育の実践力の習得につなげていきます。演習形式による授業及び諏訪市内保育所での演習をします。

【学習到達目標】

1. 乳児および3歳未満児の特徴を理解し、適切な養育・保育の方法を習得する。
2. 演習を通して、乳児および3歳未満児の子どもの生活や遊び、保育の方法や環境について具体的に学ぶ。
3. 乳児保育における配慮の実際について、理解する。

【成績評価方法】

演習レポート、提出物及び授業態度等を勘案した総合評価

【テキスト(教科書)・参考図書】

- 1 テキスト(教科書)
見る・考える・創り出す 乳児保育Ⅰ・Ⅱ 天野珠路・増田まゆみ・迫田圭子他編 (萌文書林)
- 2 参考図書
保育所保育指針・育ちの理解と指導計画

【実務経験】

公立保育所(保育士・園長)

| | 回数 | 授業内容 | 各授業のねらい | | 備考 |
|---|----|--------------------------------------|---|---|----|
| | | | A | B | |
| 教 | 1 | Aグループ:保育所演習① Bグループ:事例から学ぶ | A:一日の流れと保育の環境を学ぶ B:子どもの発達とかかわりの事例 | | |
| | 2 | Aグループ:保育所演習① Bグループ:乳児の手作りおもちゃ作り | A:生活や遊びを支える環境構成 B:手作りおもちゃの意義 | | |
| | 3 | Aグループ:保育所演習① Bグループ:保育所演習① | A:眠りに誘う援助・午睡の環境を学ぶ B:一日の流れと保育の環境を学ぶ | | |
| | 4 | Aグループ:保育所演習① Bグループ:保育所演習① | A:降園時の保護者との対応を学ぶ B:生活や遊びを支える環境構成 | | |
| 育 | 5 | Aグループ:演習の振り返りと演習課題 Bグループ:保育所演習① | A:ねらいをふまえた振り返り・討議 B:眠りに誘う援助・午睡の環境を学ぶ | | |
| | 6 | Aグループ:乳児の手作りおもちゃ作り Bグループ:保育所演習① | A:手作りおもちゃの意義 B:降園時の保護者との対応を学ぶ | | |
| | 7 | Aグループ:保育所演習② Bグループ:演習の振り返りと演習課題 | A:発育・発達をふまえた生活と援助 B:ねらいをふまえた振り返り・討議 | | |
| | 8 | Aグループ:保育所演習② Bグループ:1歳児の手づくりおもちゃ作り | A:子ども同士のかかわりと援助 B:発達理解し丁寧な制作をする | | |
| 内 | 9 | Aグループ:保育所演習② Bグループ:保育所演習② | A:個々の子どもに応じた援助を学ぶ B:発育・発達をふまえた生活と援助 | | |
| | 10 | Aグループ:保育所演習② Bグループ:保育所演習② | A:受容的・応答的なかかわりを学ぶ B:子ども同士のかかわりと援助 | | |
| | 11 | Aグループ:演習記録のまとめ Bグループ:保育所演習② | A:エピソードから学んだこと B:個々の子どもに応じた援助を学ぶ | | |
| | 12 | Aグループ:1歳児の手づくりおもちゃ作り Bグループ:保育所演習② | A:発達を理解し丁寧な制作をする B:受容的・応答的なかかわりを学ぶ | | |
| 容 | 13 | 演習のまとめ(グループ討議) | 演習で学んだことを具体的に振り返る。仲間の意見から学ぶ。 | | |
| | 14 | 乳児保育における職員間、保護者との連携・協働 | 職員のチームワーク、保護者との信頼関係について学ぶ。 | | |
| | 15 | 乳児保育の課題・乳児保育のやりがい・総括 | 改めて保育所保育指針にもどり乳児保育を総合的に理解する。 | | |

| 教科目名 | 単位数 | 総時間数 | 授業形態 | 必修・選択別 | 開講学年 | 開講時期 | 担当講師名 |
|-----------|-----|------|------|--------|------|------|-------|
| 子どもの健康と安全 | 1 | 30 | 演習 | 必修 | 2 | 後期 | 清水 操 |

【授業の概要】
 子どもの健康と安全を確保するための、必要な知識と実践を学びます。
 特に疾病の対応と園内の事故防止に対してすぐに応用出来る演習も取り入れます。
 講義形式、グループ学習、演習を組み入れて学習します。

【学習到達目標】

| | |
|---------------------------|-------------------------|
| 1.子どもの健康と安全を守る為の保育指針を理解する | 2.健康及び安全の管理の実施体制を理解する |
| 3.保健的観点からふまえた保育環境および援助を学ぶ | 4.保育における健康および安全の管理を理解する |
| 5.子どもの体調不良などに対する適切な対応を学ぶ | 6.感染症対策について学ぶ |
| 7.保育における保健対応を理解する | |

【成績評価方法】

- 筆記試験結果
- 授業態度
- 出欠席状況

【テキスト(教科書)・参考図書】

- テキスト(教科書)
 子どもの健康と安全 編集遠藤郁夫、三宅捷太 (学建書院)
- 参考図書

【実務経験】
 小児看護 元諏訪赤十字病院看護師長

| | 回数 | 授業内容 | 各授業のねらい | 備考 |
|----|------------------|----------------------------------|---|---------------------------|
| | 教 育 内 容 | 1 | 子どもの健康と安全を守るために、保育指針の目指すもの | 保育保健の向上の為に、組織・計画的な取り組みを学ぶ |
| 2 | | 健康及び安全の管理実施体制 | 職員間の連携、協働と組織的な取り組みについて学ぶ | |
| 3 | | 子どもの健康と保育の環境、個別対応と集団全体の健康及び安全の管理 | 保育の環境と子どもの生活習慣と発達援助を学ぶ 個別対応と集団全体の健康と安全について学ぶ | |
| 4 | | 衛生管理 | 施設内、職員の衛生管理について学ぶ | 演習 |
| 5 | | 事故防止及び安全対策 | 子どもの事故の現状から特徴を理解し、予防と対応を学ぶ | |
| 6 | | 危機管理・災害への備え | 日常の安全管理と危機管理 災害への対応を学ぶ | |
| 7 | | 体調不良が発生した場合、緊急を要する状況への対処方法 | 症状に対する対応、緊急状況への対処方法を学ぶ | 演習 |
| 8 | | 体調不良が発生した場合、緊急を要する状況への対処方法 | 症状に対する対応、緊急状況への対処方法を学ぶ | |
| 9 | | 救命手当及び救急蘇生法 | 救命手当の基本対応と心肺蘇生法の手順を学ぶ① | 演習 |
| 10 | | 救命手当及び救急蘇生法 | 救命手当の基本対応と心肺蘇生法の手順を学ぶ② | 演習 |
| 11 | | 感染症対策 | 感染症対策 予防接種について学ぶ | |
| 12 | | 感染症対策 | 感染発生時の対応、感染症罹患後の対応 | |
| 13 | | 保育における保健的対応 | 未満児、慢性疾患のある児の保育における対応を学ぶ | |
| 14 | | 試験 | 筆記試験の実施 | |
| 15 | | 全体のまとめ | 筆記試験の解説と授業全体のまとめ | |

| 教科目名 | 単位数 | 総時間数 | 授業形態 | 必修・選択別 | 開講学年 | 開講時期 | 担当講師名 |
|--------|-----|------|------|--------|------|------|-------|
| 障がい児保育 | 2 | 60 | 演習 | 必須 | 2 | 通年 | 片桐 沙織 |

【授業の概要】
 障がい児の理解と保育場面での発達の援助、特別な配慮を必要とする子どもの保育の実際を学びます。その中でスタッフ間の連携・協働、家庭や自治体・関係機関との連携についても学びます。「気になる子」について、講義形式のほか、グループワーク、制作などを行いながら理解を深めていきます。

【学習到達目標】
 ・障がい児保育の歴史の変遷や基本理念を学び、障がい児保育について理解を深める。
 ・障がい児保育に関する現状と課題について理解する。
 ・個々の特性や心身の発達に応じた援助や配慮について理解を深める。
 ・障がい児保育における計画の作成や援助の具体的方法について理解を深める。
 ・家庭への支援や関係機関との連携・協働について学ぶ。

【成績評価方法】
 1 筆記試験
 2 レポート等総合的評価
 4 出欠席状況

【テキスト(教科書)・参考図書】
 1 テキスト(教科書)
 障害児保育ワークブック インクルーシブ保育・教育をめざして
 2 参考図書
 気になる子、障がいのある子、すべての子が輝くインクルーシブ保育

【実務経験】
 児童養護施設心理士、児童家庭支援センター心理士、児童相談所(児童心理司)、一時保護所職員

| | 回数 | 授業内容 | 各授業のねらい | 備考 |
|--------|----|--|--|-----------------|
| 教 育 | 1 | ガイダンス 授業の概要説明、自己紹介、グループワーク | 授業内容の把握、内容説明、アイスブレイク | 自己紹介 |
| | 2 | 「障がい児保育」を支える理念と歴史 障がいの種類と特徴(全体像の把握) | インクルージョンとは何か DSM-V | 参考資料 教科書 |
| | 3 | 乳幼児期の発達と障がいの理解 未熟児、アタッチメント | 乳幼児期の発達とアタッチメントの基礎理解 | 参考資料 教科書 |
| | 4 | 知的障がいとは | 精神発達遅滞、ダウン症候群他 理解と支援のポイント | 参考資料 教科書 |
| | 5 | 障がいの早期発見、早期療育 遠城寺式発達検査 | 乳幼児健診、早期療育について 遠城寺式発達検査の体験 | グループワーク |
| | 6 | SSTの理論と実際 | SSTの概念と実践方法 学習理論、スモールステップ、トークン | 参考資料 グループワーク |
| | 7 | 肢体不自由児、視覚障がい、聴覚障がい、 言語障がいについて | それぞれの障がいの理解と支援のポイント | 教科書 動画 |
| | 8 | 重度心身障害、医療ケア児について | 医療ケア児の理解、現状と課題の整理 | 教科書 動画 |
| 内 | 9 | 「気になる子」 神経発達症:ASD 自閉スペクトラム症① | ASDの特徴と支援のポイント 視覚支援の使い方 | 参考資料 教科書 |
| | 10 | 「気になる子」 神経発達症:ASD 自閉スペクトラム症② | 視覚支援の作成体験 | グループワーク |
| 容 | 11 | 「気になる子」 神経発達症:ADHD LD① | ADHD、LDの特徴と支援のポイント 自身の特性チェック | 参考資料 教科書 |
| | 12 | 「気になる子」 神経発達症:ADHD LD② | 特性に応じた支援教材の作成体験 | グループワーク |
| | 13 | 保護者、兄弟等に対する理解と支援 | 家族支援や保護者間の交流、支え合いの意義 ジェノグラムについての解説と体験 | |
| | 14 | 事例検討 | 子どもを取り巻く環境について | グループワーク |
| | 15 | まとめ | 半期の振り返り | 動画視聴 |

| | | | | |
|---|----|--------------------------|-------------------------------------|-----------------|
| 教 | 16 | 後期ガイダンス 子どもの権利について | 目標確認 子どもの権利について学ぶ | 参考資料 絵本 |
| | 17 | ペアレンティングの理論と実際① | ペアレンティングとは 「困っている子」の理解と支援 | 参考資料 グループワーク |
| | 18 | ペアレンティングの理論と実際② | ペアレンティング体験 叱らない子育て法の体験 | グループワーク |
| | 19 | 「気になる子」 児童虐待 育ちへの影響 | 児童虐待の理解、子どもへの影響について | 参考資料 ワーク |
| | 20 | 「気になる子」 アタッチメント、情緒障がい | アタッチメントの理論について 情緒障がいについての理解 | 参考資料 教科書 |
| 育 | 21 | アセスメント 成育歴の整理 | 遺伝的要因と環境要因の相互作用について 自身の生い立ちを振り返る | 参考資料 個人ワーク |
| | 22 | 事例検討 | 虐待事例について考える | 参考資料 グループワーク |
| | 23 | 就学支援、連携機関との協働(福祉、医療) | 連携機関について学ぶ 就学支援の実際について | 教科書 参考資料 |
| 内 | 24 | 障がい児の支援と指導計画の実際 | 年間・月間・週間の個別指導案 | 参考資料 教科書 |
| | 25 | 保育園生活の個別支援と指導計画 | ADL自立、着席、トイレトレーニング、食育 | ワーク |
| | 26 | 神経発達症についてのまとめ | 視覚支援についてのまとめ | グループワーク |
| | 27 | インクルーシブ保育のまとめ | 課題の多い子への支援、保育園内での連携 | グループワーク |
| 容 | 28 | 事例検討 | 虐待の予防と対応 | 参考資料 グループワーク |
| | 29 | 課題整理 | 1年の振り返りとまとめ | 教科書 参考資料 |
| | 30 | まとめ | 動画視聴 | 教科書 |

| | | | | | | | |
|--------|-----|------|------|--------|------|------|-------|
| 教科目名 | 単位数 | 総時間数 | 授業形態 | 必修・選択別 | 開講学年 | 開講時期 | 担当講師名 |
| 社会的養護Ⅱ | 1 | 30 | 演習 | 必修 | 2 | 前期 | 中村 高弘 |

【授業の概要】
 社会的養護にかかる施設や利用児（者）の実態を理解し、支援の方法について学ぶ。また支援についての具体的な展開方法を理解する。

【学習到達目標】
 1 子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解する。
 2 施設養護及び家庭養護の実際について理解する。
 3 社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解する。
 4 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解する。
 5 社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解する。

【成績評価方法】
 1 筆記試験結果
 2 授業態度
 3 出欠席状況

【テキスト(教科書)・参考図書】
 1 テキスト(教科書)
 演習・保育と社会的養護実践－社会的養護Ⅱ－ 橋本好市ほか 編集(株式会社みらい)
 2 参考図書

【実務経験】
 福祉事務所、児童相談所、障がい者施設等で勤務経験あり。

| | 回数 | 授業内容 | 各授業のねらい | 備考 |
|----|------------------|-------------------------------------|---|----------------|
| | 教 育 内 容 | 1 | 社会的養護の理念と枠組み | 社会的養護Ⅰの内容の振り返り |
| 2 | | 社会的養護の機能、法制度、子どもの権利 | 社会的養護の機能や役割、子どもの権利を守るための制度について理解する。 | |
| 3 | | 社会的養護にかかわる保育士の役割 | 保育士の倫理と責務、専門性について理解する。 | |
| 4 | | 施設における支援の実際 | アドミッションケアからアフターケアに至る各段階、家庭・家族への支援について理解する。 | |
| 5 | | 社会的養護にかかわる相談支援 | 家庭・家族への支援の必要性と保護者に向けた支援を理解する。 | |
| 6 | | 社会的養護にかかわる相談支援 | 子どもの自立支援の必要性と自立に向けた支援を理解する。 | |
| 7 | | 記録および評価 | 記録の意義や目的、ソーシャルワークの視点からの家族・家庭支援の方法等について理解する。 | |
| 8 | | ケーススタディ(教科書ケース1) 被虐待児の家庭復帰 | 児童虐待の事例を通して、関係機関との連携や、その中で施設での役割について理解する。 | |
| 9 | | ケーススタディ(教科書ケース8) 児童養護施設での就労支援 | 児童養護施設での高校を中退した児童への就労支援の事例での施設の役割について理解する。 | |
| 10 | | ケーススタディ(教科書ケース4) 障がい児入所施設での生活支援 | 生活支援の事例を通して、障がい特性に配慮した支援について理解する。 | |
| 11 | | ケーススタディ(教科書ケース10) 個別支援計画の作成 | 里親への委託事例を通して、子どもや保護者への支援、委託後の里親支援を理解する。 | |
| 12 | | ケーススタディ(教科書ケース11) 施設養護から里親委託への支援 | 里親への措置変更の事例を通して、家庭と施設との連携、その際の留意点等について学ぶ。 | |
| 13 | | ケーススタディ(教科書ケース12) 施設入所児童の母親への支援 | 育児放棄からの施設入所事例を通して、養育者が抱える課題への理解と支援について学ぶ。 | |
| 14 | | 社会的養護実践における課題と展望 | 新しい社会的養育ビジョンについて理解する。 | |
| 15 | | 全体のまとめ | 授業全体のまとめを行う。 | |

| 教科目名 | 単位数 | 総時間数 | 授業形態 | 必修・選択別 | 開講学年 | 開講時期 | 担当講師名 |
|-------|-----|------|------|--------|------|------|-------|
| 子育て支援 | 1 | 30 | 演習 | 必修 | 2 | 後期 | 丸山 直道 |

【授業の概要】
 「子育て支援」を要する社会的な背景理解に基づいて、保育者がどのように子育て支援を実践するのが望ましいか、テキストに沿って事例も使いながら学ぶ。

【学習到達目標】
 1 保育士の行う子育て支援の特性について理解できる。
 2 保育士の行う子育て支援の展開について理解できる。
 3 保育士の行う子育て支援とその実際(内容・方法・技術)について理解できる。

【成績評価方法】
 1 レポートによる評価
 2 出欠席の状況を加味する

【テキスト(教科書)・参考図書】
 1 テキスト(教科書)
 「演習・保育と子育て支援」 小原敏郎・橋本好市・三浦主博 編 (株)みらい
 2 参考図書

【実務経験】
 児童相談所(児童福祉司)、福祉事務所(査察指導員)、障がい児・者施設での勤務経験あり。

| | 回数 | 授業内容 | 各授業のねらい | 備考 |
|------------------|----|---|---|----|
| 教 育 内 容 | 1 | 保育と子育て支援(オリエンテーション) | 授業の進め方等について説明する。 | |
| | 2 | 子育て支援の意味と目的・方法(保育と子育て支援) | 子育て支援の基礎である、その社会的背景、意味、目的、権利擁護及び保育の専門性等について学ぶ。 | |
| | 3 | 子育て支援の意味と目的・方法(子どもの権利と子育て支援) | | |
| | 4 | 子育て支援の意味と目的・方法(保育の専門性と子育て支援) | | |
| | 5 | 子育て支援の展開過程(1) | 子育て支援の展開過程・概要について学ぶ。 | |
| | 6 | 子育て支援の展開過程(2) | | |
| | 7 | 子育て支援における計画・記録・評価 | 計画の必要性、記録の重要性等について学ぶ。 | |
| | 8 | 保護者との信頼関係の構築 | 保護者との信頼関係の重要性について学ぶ。(バイステックの7原則) また、保護者の理解とかかわり方を学ぶ。 | |
| | 9 | 保護者の理解とかかわり方 | | |
| | 10 | 子育て支援における面談(面接)とは | 面接(面談)技術について、ロールプレイを取り入れ学ぶ。 | |
| | 11 | | | |
| | 12 | 地域社会資源の活用と関係機関との連携・協力 | 地域資源(社会資源)や関係機関との連携・協力の重要性について学ぶ。 | |
| | 13 | 子育て支援の実際 保育所の特性を生かした保護者への支援や特別な支援を必要とする保護者への支援等の事例学習 | ショート事例・プロセス事例の演習課題をグループで検討することにより、子育て支援の実際を学ぶ。 | |
| | 14 | | | |
| | 15 | 授業のまとめ | 学習を振り返り、まとめをする。 | |

| 教科目名 | 単位数 | 総時間数 | 授業形態 | 必修・選択別 | 開講学年 | 開講時期 | 担当講師名 |
|--------------|-----|--------|------|--------|------|------|-------------|
| 保育実習 I (保育所) | 2 | 80時間以上 | 実習 | 必修 | 1 | 後期 | 伊藤 千枝・平林 英理 |

【授業の概要】

保育所及び幼保連携型認定こども園において、実習指導者のもとで、保育所に求められる役割や機能、保育士の職務内容を具体的に学ぶ。実習前に自ら課題を設定し、実習後に達成状況を検証し、次への学習課題を明確にする。

【学習到達目標】

1. 保育所等の児童福祉施設の役割や機能を具体的に理解する。
2. 観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。
3. 既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解する。
4. 保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。
5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。

【成績評価方法】

- 1 実習園評価 2 実習指導(巡回時)評価 3 実習のまとめ(レポート)

【テキスト(教科書)・参考図書】

- 1 教科書
これからの時代の保育養成・実習ガイド(中央法規)
- 2 参考図書
実習の手引き(本校独自資料)

【実務経験】

伊藤:児童相談所、福祉事務所、障がい児、者施設での勤務経験あり。
平林:保育所、福祉事務所、障がい児施設での勤務経験あり。

| | 授 業 内 容 | 各授業のねらい | 備 考 |
|------------------|---|--|-----|
| 教 育 内 容 | <p><内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所の役割と機能 (1) 保育所における子どもの生活と保育士の援助や関わり (2) 保育所保育指針に基づく保育の展開 2. 子ども理解 (1) 子どもの観察とその記録による理解 (2) 子どもの発達過程の理解 (3) 子どもへの援助や関わり 3. 保育内容・保育環境 (1) 保育の計画に基づく保育内容 (2) 子どもの発達過程に応じた保育内容 (3) 子どもの生活や遊びと保育環境 (4) 子どもの健康と安全 4. 保育の計画、観察、記録 (1) 全体的な計画と指導計画及び評価の理解 (2) 記録に基づく省察・自己評価 5. 専門職としての保育士の役割と職業倫理 (1) 保育士の業務内容 (2) 職員間の役割分担や連携・協働 (3) 保育士の役割と職業倫理 <p>*詳細については「保育実習指導 I」の中で説明する。 *実習期間中に、本校保育学科専任教員が実習施設を訪問し、学生の実習状況の確認並びに学生の実習に関する不安等に対応する。</p> | <p>各教科で修得した知識や技能の内容を保育現場でどのように活用すべきかを、保育に参加し、保育の実際を確認しながら学んでいく。 また、子どもたちの発達過程の実際を確認しながら、それぞれの過程でどのような保育が展開されているかを確認する。 この実習は、保育士を目指す者が保育所等において実習を行い、保育所保育士の役割と職務について実践現場での体験を通して理解するための実習として位置付ける。</p> <p>本校が指定した期間内に1単位40時間の保育所実習を行う。 実習の内容は見学、観察実習、参加実習を中心に行う。</p> | |

| 教科目名 | 単位数 | 総時間数 | 授業形態 | 必修・選択別 | 開講学年 | 開講時期 | 担当講師名 |
|-------------|-----|--------|------|--------|------|------|-------------|
| 保育実習 I (施設) | 2 | 80時間以上 | 実習 | 必修 | 1 | 後期 | 伊藤 千枝・平林 英理 |

【授業の概要】
履修した教科内容を踏まえ、実際の現場の中で子ども(利用者)との関わりを通して子ども(利用者)の理解を深め、さらに、保育士の業務内容などを具体的に理解する。
実習する中で、児童福祉施設等の役割や機能について確認する。

- 【学習到達目標】**
1. 児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。
 2. 観察や子ども(利用者)との関わりを通して子ども(利用者)への理解を深める。
 3. 既習の教科の内容を踏まえ、子ども(利用者)の生活支援及び保護者等への支援について総合的に学ぶ。
 4. 施設の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。
 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。

【成績評価方法】

1 実習園評価 2 実習指導(巡回時)評価 3 実習のまとめ(レポート)

【テキスト(教科書)・参考図書】

- 1 テキスト(教科書)
これからの時代の保育養成・実習ガイド(中央法規)
- 2 参考図書
実習の手引き 本校独自資料

【実務経験】

伊藤:児童相談所、福祉事務所、障がい児、者施設での勤務経験あり。
平林:保育所、福祉事務所、障がい児施設での勤務経験あり。

| | 授業内容 | 各授業のねらい | 備考 |
|------------------|--|---|---|
| 教 育 内 容 | <p><児童福祉施設等(保育所以外)における実習の内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 施設の役割と機能 (1)施設における子ども(利用者)の生活と保育士の援助や関わり (2)施設の役割と機能 2. 子ども(利用者)の理解 (1)子ども(利用者)の観察とその記録 (2)個々の状況に応じた援助やかかわり 3. 施設における子ども(利用者)の生活と環境 (1)計画に基づく活動や援助 (2)子ども(利用者)の心身の状態に応じた生活と対応 (3)子ども(利用者)の活動と環境 (4)健康管理、安全対策の理解 4. 計画と記録 (1)支援計画の理解と活用 (2)記録に基づく省察・自己評価 5. 専門職としての保育士の役割と倫理 (1)保育士の業務内容 (2)職員間の役割分担や連携 (3)保育士の役割と職業倫理 <p>*詳細については「保育実習指導 I」の中で説明する。 *実習期間中に、本校保育学科専任教員が実習施設を訪問し、学生の実習状況並びに学生の実習に関する不安等に対応する。</p> | <p>施設実習については、履修者の希望を参考に選定を行うが、県内の保育士養成協議会において調整をするため、必ずしも希望施設になるとは限らない。 本校が定める期間内に1単位40時間の施設実習を、原則長野県内の施設で行う。</p> <p>但し、県外出身者についてはこの限りではない(事前に個別相談を実施し決定する)。 実習の内容は見学、観察実習、参加実習が中心に行われる。実習内容は左記のとおりである。</p> | <p>感染症(新型コロナウイルス、インフルエンザ)対策を講じ、実習に臨む。 基本的事項 マスクの着用、手洗い、手指消毒、健康チェック、抗原抗体検査 ※実習先のガイドライン変更により変わる場合もある。</p> |
| | | <p>*利用する子どもや利用者の最善の利益を優先した実習が実施できるようにしっかりと準備をして望むこと。</p> | |

| 教科目名 | 単位数 | 総時間数 | 授業形態 | 必修・選択別 | 開講学年 | 開講時期 | 担当講師名 |
|----------|-----|------|------|--------|------|------|-------------|
| 保育実習指導 I | 2 | 60 | 演習 | 必修 | 1・2 | 通年 | 伊藤 千枝・平林 英理 |

【授業の概要】
 ○ 保育所及び児童福祉施設、認定こども園等で実習する際に必要な心構えや事前準備、実習の進め方や記録の書き方等の基礎を学ぶ。
 ○ 講義形式により進めるが、事前学習や事後学習においては、グループ学習や発表会形式にて授業を行う。

【学習到達目標】
 1. 保育実習の意義・目的を理解する。
 2. 実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。
 3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務について理解する。
 4. 実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。
 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や課題や目標を明確にする。

【成績評価方法】
 1 出席状況・授業態度
 2 記録・課題等への取り組み状況
 3 実習のまとめ(レポート)

【テキスト(教科書)・参考図書】
 1 テキスト(教科書)
 幼稚園・保育所実習ハンドブック、施設実習ハンドブック、保育所保育指針解説書
 2 参考図書
 実習おまかせBOOK 実習の手引き(本校独自資料)

【実務経験】
 伊藤:児童相談所、福祉事務所、障がい児、者施設での勤務経験あり。
 平林:保育所、福祉事務所、障がい児施設での勤務経験あり。

| | 回数 | 授業内容 | 各授業のねらい | 備考 |
|----|----|-----------------|--|--------------------------------|
| | 教 | 1 | 実習の意義・目的・概要を理解する | 「保育実習 I」の位置づけを学びその意義・目的等を理解する。 |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |
| 4 | | | | |
| 育 | 5 | 製作活動 | 実習場面で活用できる手づくりおもちゃ等の製作を行う。 | |
| | 6 | 実習の方法を理解する | ①実習の段階を学び、その具体的内容と実習の方法を理解する。 ②保育士の職務を理解し、その役割について学ぶ。 ③子ども(利用者)理解の方法を学ぶ。 | |
| | 7 | | | |
| | 8 | | | |
| | 9 | | | |
| | 10 | | | |
| 11 | | | | |
| 容 | 12 | 実習の心構えについて理解する | ①個人のプライバシーの保護と守秘義務の趣旨を学び、理解する。 ②実習生としてふさわしい服装や言葉遣いについて確認する。 | |
| | 13 | 実習記録の意義・方法を理解する | ①記録をとる事の意義を考える。 ②実習記録の具体的内容を確認しその記録方法を学ぶ。 | |
| | 14 | | | |
| | 15 | | | |
| 15 | | | | |

| 回数 | 授業内容 | 各授業のねらい | 備考 |
|----|---------------------|---|----|
| 16 | 実習課題を明確にする | ①実習において自らの達成すべき課題を明らかにする。 ②個人票の作成 | |
| 17 | | | |
| 18 | 実習に関する事務手続きについて把握する | ①検便(腸内細菌検査)・健康診断等の手続きをする。 ②実習保険に入る意義、緊急時の連絡方法を理解する。 | |
| 19 | 保育士の専門性と職業倫理の理解 | 実習に際してふまえるべき事項として理解する。 | |
| 20 | 保育活動の計画と準備 | 指導計画について理解し、自らの実習に備える。 | |
| 21 | 実習直前指導 | ①欠席や遅刻早退の連絡方法を伝える。 ②教員の訪問指導の意義やその内容を伝える。 ③実習終了後の提出物について説明する。 | |
| 22 | | | |
| 23 | 保育実習 I (保育所) 事後学習 | ①実習の具体的内容を報告する。 ②印象に残ったできごと・体験を整理する。 ③課題の達成状況について報告する。 ④実習体験を報告し合い、互いの問題点を話し合う。 ⑤実習報告会の資料作りをする。 | |
| 24 | | | |
| 25 | | | |
| 26 | 保育実習 I (施設) 事後学習 | ①実習の具体的内容を報告する。 ②印象に残ったできごと・体験を整理する。 ③課題の達成状況について報告する。 ④実習体験を報告し合い、互いの問題点を話し合う。 ⑤実習報告会の資料作りをする。 | |
| 27 | | | |
| 28 | | | |
| 29 | 実習報告会(保育所・施設) | 実習報告会に参加・発表し今後の学習課題を明確にする。 | |
| 30 | | | |

| 教科目名 | 単位数 | 総時間数 | 授業形態 | 必修・選択別 | 開講学年 | 開講時期 | 担当講師名 |
|--------|-----|------|------|--------|------|------|-----------|
| 保育総合演習 | 2 | 60 | 演習 | 必修 | 2 | 通年 | 保育学科 専任講師 |

【授業の概要】
 保育に関する様々な課題を取り上げ、分析、検討を行い、実際の保育に有効な手段、方法、技術を習得するため、研究を深めていきます。さらに、自身で深めた研究についてパワーポイントを用いて発表します。

【学習到達目標】
 1 子ども及び子どもを取り巻く様々な問題について、幅広い視点から見つめる。
 2 問題解決のための対応や判断方法について検討し、自発的に課題に取り組み「考える力」を身につける。
 3 児童や保護者を援助するための技術・方法を習得する。
 4 個人ごと研究テーマを設定し、調査・実践・評価を行い、理論的でわかりやすい研究報告書を作成する。

【成績評価方法】
 1 研究内容及び発表
 2 授業態度
 3 出席状況

【テキスト(教科書)・参考図書】
 1 テキスト(教科書)
 指定はない
 2 参考図書

【実務経験】

| | 回数 | 授業内容 | 各授業のねらい | 備考 |
|----|------------------|-------------------|---|-----------------------|
| | 教 育 内 容 | 1 | 保育実践演習 オリエンテーション(全体) | 研究の進捗確認 今後の進め方について |
| 2 | | 個人による活動(ゼミ単位) | 研究・実践 | |
| 3 | | | | |
| 4 | | 「アンケートの取り方について」講座 | | |
| 5 | | | アンケート・聞き取り調査に向けた準備 | |
| 6 | | 論文書提出① | 同上 | |
| 7 | | 個人による活動(ゼミ単位) | 研究・実践 | |
| 8 | | 個人による活動(ゼミ単位) | 同上 | |
| 9 | | 個人による活動(ゼミ単位) | 同上 | |
| 10 | | 論文書最終提出日 | 原稿最終確認 | |
| 11 | | 中間発表報告会の準備 | 中間報告の準備 | |
| 12 | | 中間発表報告会の準備 | 同上 | |
| 13 | | 中間発表報告会 | ここまで成果をゼミの枠を超え、グループに分かれ発表し合う。 活発な質疑応答を求める。 | |
| 14 | | | | |
| 15 | | 中間発表のまとめ及び今後の計画 | | |

| | 回数 | 授業内容 | 各授業のねらい | 備考 |
|--------|--------|--------------------------------|----------------|------------------|
| 教 育 | 16 | 保育実践演習 今後の進め方 オリエンテーション(全体) | 今後の進め方について | |
| | 17 | 個人による活動(ゼミ単位) | 研究・実践 | |
| | 18 | 個人による活動(ゼミ単位) | 研究・実践 | |
| | 19 | 個人による活動(ゼミ単位) | 同上 | |
| | 20 | 個人による活動(ゼミ単位) | 同上 | |
| | 21 | 個人による活動(ゼミ単位) | 同上 | |
| | 22 | 個人による活動(ゼミ単位) 論文書提出日 | 研究の検討・準備・結果まとめ | |
| | 23 | 個人による活動(ゼミ単位) | 同上 | |
| | 24 | 個人による活動(ゼミ単位) 論文書提出日(最終提出) | 原稿最終確認 | |
| | 内 容 | 25 | 発表会準備 | 発表会準備(パワーポイント作成) |
| 26 | | 発表会準備 | 同上 | |
| 27 | | 発表会準備 | 同上 | |
| 28 | | 発表会準備 | 同上 | |
| 29 | | 発表会準備 | 同上 | |
| 30 | | 発表会準備(ゼミ内確認) | 発表練習 | |

| 教科目名 | 単位数 | 総時間数 | 授業形態 | 必修・選択別 | 開講学年 | 開講時期 | 担当講師名 |
|--------|-----|------|------|--------|------|------|-------|
| 福祉従事者論 | 2 | 30 | 講義 | 選択 | 1 | 後期 | 藤森 洋子 |

【授業の概要】
 保育士として保育所あるいは様々な福祉現場で働くことになる。この授業では福祉従事者としての基本的立場や考え方などについて学んでいく。
 講義及びグループワークを行いながら進める。

【学習到達目標】
 1 社会思想の変遷と社会福祉従事者について理解する。
 2 社会従事者の領域と役割を理解する。
 3 社会福祉サービスの提供と受益者の現状を理解する。
 4 社会福祉従事者の思想的基盤について知る。

【成績評価方法】
 1 試験レポート
 2 出席状況・授業態度

【テキスト(教科書)・参考図書】
 1 テキスト(教科書)
 特に使用しない
 2 参考図書
 必要に応じて適宜配布する

【実務経験】
 介護福祉士として社会福祉協議会での実務経験あり。

| | 回数 | 授業内容 | 各授業のねらい | 備考 |
|----|------------------|-----------------|----------------------------|------------|
| | 教 育 内 容 | 1 | オリエンテーション | 授業の概要を理解する |
| 2 | | 社会福祉従事者とはなにか I | 社会福祉従事者の変遷について理解する | |
| 3 | | 福祉実践者の思想 I | 社会福祉実践者の思想について学ぶ | |
| 4 | | 福祉実践者の思想 II | 同上 | |
| 5 | | 社会福祉従事者の職場 I | 社会福祉従事者の職場・職種を知る | |
| 6 | | 社会福祉従事者の職場 II | 職場・職種と求められている役割について理解する | |
| 7 | | 社会福祉従事者の周辺領域の職場 | 社会福祉従事者の周辺領域の職場と連携について理解する | |
| 8 | | 地域福祉とネットワーク I | 地域の社会資源とその連携について理解する | |
| 9 | | 福祉職場の実際 I | 実際の現場の動きや課題を知る | |
| 10 | | 福祉職場の実際 II | 同上 | |
| 11 | | 福祉職場の実際 III | 同上 | |
| 12 | | 福祉職場の実際 IV | 同上 | |
| 13 | | 福祉職場の実際 V | 同上 | |
| 14 | | 福祉職場の実際 VI | 同上 | |
| 15 | | まとめ | 学習内容の総まとめ | |

| 教科目名 | 単位数 | 総時間数 | 授業形態 | 必修・選択別 | 開講学年 | 開講時期 | 担当講師名 |
|-------|-----|------|------|--------|------|------|-------|
| 臨床心理学 | 2 | 60 | 演習 | 選択 | 2 | 通年 | 竹村 智子 |

【授業の概要】
 保育現場で必要とされる臨床心理学に関する知識及び技術について学ぶ。また、福祉従事者として働く上で大切となるストレス対処法について学ぶ。
 授業は、教科書に沿った講義と演習、DVD視聴による体験学習を主として進める。

【学習到達目標】
 1 障害を持つ子どもの親の心理、支援者のあり方、発達障害の具体的支援について理解する。
 2 心の失調について学び、心身の不調を抱える保護者や子どもへの対応について理解する。
 3 保育現場で想定される難しい場面のロールプレイを通して、実践的な相談援助技術を身に付ける。
 4 自分自身のストレスや考え方の傾向を知り、自分にとって効果的なストレス対処法を身に付ける。

【成績評価方法】
 1 レポート 2 提出物 3 授業態度 4 出欠席状況

【テキスト(教科書)・参考図書】
 1 テキスト(教科書)
 「教養としての精神医学」 松崎 朝樹 (KADOKAWA)
 2 参考図書
 「コーピングのやさしい教科書」 伊藤 絵美 著 (金剛出版)

【実務経験】
 児童相談所(児童心理司)、大学の学生相談室で勤務経験あり。

| | 回数 | 授業内容 | 各授業のねらい | 備考 |
|----|------------------|---------------------|--|---------------------------------|
| | 教 育 内 容 | 1 | オリエンテーション | 授業の予定を確認するとともに、学生自身の自己理解、交流を図る。 |
| 2 | | DVD鑑賞 | 障害を持つ当事者や家族の心理をDVD鑑賞を通じて学ぶ。 | |
| 3 | | 臨床心理学の概要 | 臨床心理学は福祉従事者にとってどのように役立つのかを理解する。 | |
| 4 | | DVD鑑賞 | 前述のとおり | |
| 5 | | 子どもの発達(発達とアセスメント) | 子どもの発達の概要を学び、発達をとらえるための方法(発達検査等)を知る。 | |
| 6 | | DVD鑑賞 | 前述のとおり | |
| 7 | | ロールプレイ ① ~同僚への関わり~ | ロールプレイを通して、相談援助技術の向上を図る。(同僚からの相談を受ける) | |
| 8 | | ストレスとうまく付き合う(コーピング) | 自己理解を進め、ストレスへの対処方法であるコーピングを学ぶ。 | |
| 9 | | ロールプレイ ② ~保護者への関わり~ | ロールプレイを通して、相談援助技術の向上を図る。(保護者からのクレームを受ける) | |
| 10 | | ストレスとうまく付き合う(コーピング) | 自己理解を進め、ストレスへの対処方法であるコーピングを学ぶ。 | |
| 11 | | 子どもの発達(親子関係・愛着) | 親子の関係性や環境要因が、子どもの愛着形成に与える問題について理解する。 | |
| 12 | | DVD鑑賞 | 前述のとおり | |
| 13 | | 思春期における心理的課題 | 思春期に見られる心理的課題について、学童期までの育ちの影響を押さえて理解する。 | |
| 14 | | DVD鑑賞 | 前述のとおり | |
| 15 | | 成人期における心理的課題 | 成人期における心理的課題について、思春期までの育ちの影響をふまえて理解する。 | |

| | 回数 | 授業内容 | 各授業のねらい | 備考 | |
|----|----|------------------------|--|--|--|
| 教 | 16 | DVD鑑賞 | 前述のとおり | | |
| | 17 | 人格障害について | グループ学習により、人格障害についての理解を深める。 | | |
| | 18 | DVD鑑賞 | 前述のとおり | | |
| | 19 | 依存について | グループ学習により、さまざまな依存についての理解を深める。 | | |
| | 20 | DVD鑑賞 | 前述のとおり | | |
| | 育 | 21 | ストレスとうまく付き合う(アサーション) | 自己理解を進め、良好なコミュニケーションの方法としてのアサーションを学ぶ。 | |
| | | 22 | DVD学習のまとめ | これまで行ってきたDVD学習から得た知識を自らの関心に沿ってまとめる。 | |
| | | 23 | ストレスとうまく付き合う(アンガーマネジメント) | 自己理解を進め、怒りの感情への対処方法であるアンガーマネジメントを学ぶ。 | |
| | 内 | 24 | DVD学習のまとめ | これまで行ってきたDVD学習から得た知識を自らの関心に沿ってまとめる。 | |
| | | 25 | ストレスとうまく付き合う(マインドフルネス) | 「いま、ここ」に集中することにより、ストレスを軽減し、リラクゼーションを促進する方法を知る。 | |
| 26 | | DVD学習のまとめ | これまで行ってきたDVD学習から得た知識を自らの関心に沿ってまとめる。 | | |
| 容 | 27 | ストレスとうまく付き合う(スキーマについて) | 自分の考え方の傾向を知り、他者と対話する際に配慮できるようになる。 | | |
| | 28 | ロールプレイ ③ ～保護者への関わり2～ | ロールプレイを通して、相談援助技術の向上を図る。(保護者に子どもの心配な点を伝える) | | |
| | 29 | まとめ | 授業全体のまとめ(レポートテスト) | | |
| | 30 | まとめ | 授業全体のまとめ | | |

| 教科目名 | 単位数 | 総時間数 | 授業形態 | 必修・選択別 | 開講学年 | 開講時期 | 担当講師名 |
|------|-----|------|------|--------|------|------|-------|
| 表現Ⅱ | 1 | 30 | 演習 | 選択 | 2 | 後期 | 中村 弘美 |

【授業の概要】
 子どもの「表現」とは何か、子どもとともに豊かな造形表現を楽しむためにはどのような活動や環境設定、援助をしたらよいか、演習やグループワークを通し必要な基礎的知識と技術を学ぶ。

【学習到達目標】
 1 実践を通し、造形表現を楽しむために必要な環境づくりや保育者のかかわりについて理解を深める。
 2 造形表現の楽しさを体験することで、保育現場での子どもへの対応や援助について理解する。

【成績評価方法】
 1 作品
 2 レポート
 3 授業態度・出席状況

【テキスト(教科書)・参考図書】
 1 テキスト(教科書)
 保育内容 領域「表現」日々わくわくを生きる子どもの表現 堂本真美子編 わかば社
 2 参考図書
 「保育をひらく造形表現」 槇英子 萌文書林

【実務経験】
 保育士、保育園長を経験

| | 回数 | 授業内容 | 各授業のねらい | 備考 |
|----|------------------|---------------|---|-----------------|
| | 教 育 内 容 | 1 | オリエンテーション | ・授業のねらい、進め方を知る。 |
| 2 | | 手袋人形制作 | ・子どもたちの興味・関心を引きつけるための保育士の引き出しを増やすための方法を知り、制作と使用法を学び合う。 | |
| 3 | | 手袋人形制作・発表 | | |
| 4 | | ごっこ遊びを考える① | ・ごっこ遊びの理解とごっこ遊びが楽しめる環境を考える。 ・子どもたちに経験させてみたいごっこ遊びを考え、環境を整え、楽しむ。 | |
| 5 | | ごっこ遊びを考える② | | |
| 6 | | 自然物を使った造形表現① | ・周りの環境を生かすことへの理解。 ・自然物の活用方法を考える。 ・自然物で遊ぶことを楽しむ。 | |
| 7 | | 自然物を使った造形表現② | | |
| 8 | | クリスマス行事の制作 | ・行事について理解し、年齢に応じて楽しめる遊びを考え、制作する。 | |
| 9 | | クリスマス行事の制作・発表 | ・作品の工夫した点などを発表し合い、良さや気づきを伝えあい、学ぶ。 | |
| 10 | | お正月のあそびの制作 | ・行事について理解し、年齢に応じて楽しめる遊びを考え、制作する。 | |
| 11 | | お正月のあそびの制作・発表 | ・作品の工夫した点などを発表し合い、良さや気づきを伝えあい、学ぶ。 | |
| 12 | | 節分の制作 | ・行事について理解し、年齢に応じて楽しめる遊びを考え、制作する。 | |
| 13 | | 節分の制作・発表 | ・作品の工夫した点などを発表し合い、良さや気づきを伝えあい、学ぶ。 | |
| 14 | | ひな祭りの制作 | ・今まで経験を生かし、年齢に応じた制作を計画し、実際に作ってみる。 | |
| 15 | | ひな祭りの制作発表・まとめ | 授業全体のまとめ。 | |

| 教科目名 | 単位数 | 総時間数 | 授業形態 | 必修・選択別 | 開講学年 | 開講時期 | 担当講師名 |
|-------|-----|------|------|--------|------|------|-------|
| 身体表現Ⅱ | 1 | 15 | 演習 | 選択 | 2 | 選択 | 柳澤 友希 |

【授業の概要】
 演習を中心とした授業で、グループごと指導案を作成し子どもたちへ指導する中で運動の楽しさを知る。実際に鉄棒、跳び箱、マットの実技を行い、子どもたちができなかったことができたときの喜びを実際に経験し、達成感を味わう。

【学習到達目標】
 1 楽しく体を動かすことにより、運動機能と共に抑制力・判断力・考える力・思いやりなど心の発達を促すことを知る。
 2 こどもの発達と運動機能や身体表現に関する知識と技術を修得する。
 3 実際に子どもたちの指導を行い、共にあそぶ楽しさを知る。

【成績評価方法】
 1 授業出席、授業態度
 2 実技試験
 3 運動あそび指導演習

【テキスト(教科書)・参考図書】
 1 テキスト(教科書)
 「鉄棒、とび箱、なわとび、マットができるようになる運動あそび」 柳澤秋孝 ひかりのくに
 2 参考図書

【実務経験】
 公立保育所で保育士、運動保育士として県内の保育園・幼稚園で子どもたち及び保育者に指導
 放課後等デイサービス、認定子ども園での運動指導

| | 回数 | 授業内容 | 各授業のねらい | 備考 |
|----|------------------|----------------------|--|------------------|
| | 教 育 内 容 | 1 | 身体表現Ⅱへの導入 | 身体表現Ⅱへのオリエンテーション |
| 2 | | マット運動の実習 | 前転・ゆりかご・さつまいも・じゃがいもなど横の回転感覚を身につける。 | |
| 3 | | 指導見学・実習(年少4回目)、へビあそび | 障害物を置くことで、速さではなく正確な動きを知る。 | |
| 4 | | 同上 (年中4回目)、マット色鬼 | 指定された色のマットへ動物で移動することで楽しみながら、支持力・跳躍力・懸垂力を身につける。 | |
| 5 | | 同上 (年長4回目)、フープあそび | 多様な動きを楽しむ。投げる・転がす・キャッチする等 | |
| 6 | | 鉄棒の実習 | 逆さ感覚や懸垂力を養う。個人差による補助運動の修得。 | |
| 7 | | 指導見学・実習(年少5回目)、親子あそび | 大人と一緒にいることで、安心感を持ちながらバランス感覚等養う。 | |
| 8 | | 同上 (年中5回目)、ぞうきんあそび | ぞうきんを使うことで、支持力・跳躍力を楽しみながら高める。 | |
| 9 | | 同上 (年長5回目)、コーンあそび | 空間認知力を養い、巧みに体を動かすことができる。 | |
| 10 | | 巧技台・とび箱・平均台の実習 | 用具の使い方を工夫し、運動にメリハリをつける。 | |
| 11 | | 学生が子どもへ運動指導を行う | グループを組み、指導案を立て子どもへの声掛けなどを工夫しながらあそびを考える | |
| 12 | | なわとびの実習 | なわとびの回し方、結び方の習得 | |
| 13 | | 学生が子どもへ運動指導を行う | グループを組み、指導案を立て子どもへの声掛けなどを工夫しながらあそびを考える | |
| 14 | | 指導見学・実習(年少6回目)、親子あそび | 子どもたちと一緒に身体を動かすことで補助の仕方を知る。 | |
| 15 | | 授業のまとめ | 運動を経験する中で、社会性を身につけ、子どもも保育士も楽しくあそぶことができる指導の仕方。 | |

| 教科目名 | 単位数 | 総時間数 | 授業形態 | 必修・選択別 | 開講学年 | 開講時期 | 担当講師名 |
|-------|-----|------|------|--------|------|------|--------|
| 音楽表現Ⅱ | 2 | 60 | 演習 | 必修 | 2 | 通年 | 松浦 亜紀子 |

【授業の概要】
 幼児の表現活動の特性や音楽表現の意義と目的について理解し、発達に即した音楽表現活動を楽しむために必要な、基礎的知識や技能を学びます。
 音楽表現Ⅱでは、グループ演習を中心に音楽表現Ⅰで習得した技術や知識をもとに、保育士に必要な音楽表現の幅を広げ、実践力を高めます。

【学習到達目標】
 1 保育・福祉現場で必要とされる伴奏法、歌唱指導法、音楽表現法、合奏指導法など、実践的な内容を習得する。
 2 音楽能力と音楽体験をさらに深めて、現場の音楽活動を支援するために必要な知識や技能を習得する。
 3 ミュージカルの制作・発表など、様々な音楽経験を通して、音楽表現活動の楽しさと喜びを感受する。

【成績評価方法】
 1 演習内容・レポート
 2 楽典知識の定着をみる筆記試験
 3 授業態度
 4 出席状況

【テキスト(教科書)・参考図書】
 1 テキスト(教科書)
 最新・幼児の音楽教育 井口 太 編(朝日出版社) ピアノの基礎 井口太・笠井かほる(朝日出版社)
 2 参考図書
 こどものうた200 日本童謡唱歌全集 たのしいうた

【実務経験】
 小・中学校教諭

| | 回数 | 授業内容 | 各授業のねらい | 備考 |
|---|----|---|--|--|
| | | | | |
| 教 | 1 | オリエンテーション | 音楽表現Ⅱのねらい、学習の進め方など理解する | ①②の活動については基本的に毎時間行う。 弾き歌い・手遊び 数名ずつ |
| | | ①定例演習(推薦曲、手遊び歌、弾き歌い) ②合唱 ③音楽基礎理論 | ①毎時間の当番活動により子どもを想定した音楽活動の展開を学び合う ②発声について基本的な技能を身につける。 ③ミュージカル発表に向けての計画 | |
| | 2 | ①定例演習(推薦曲、手遊び歌、弾き歌い) ②合唱 ③音楽基礎理論 ④演習 | ①推薦曲は、できるだけコードで伴奏する曲と合唱曲の2種類とする ②ダルクロワーズの音楽教育について理解する。 ④音楽に反応して音楽を体で表現する表現活動 | |
| | 3 | ①と②は継続して行う③ダルクロワーズのリミットの理論について学ぶ | ③ダルクロワーズのリミットについての理解を深める | レポート |
| 育 | 4 | ①と②は継続して行う③④幼児のリミットによる音楽活動を学ぶ | ③④リミットの演習 | グループ演習 |
| | 5 | ①と②は継続して行う③基本的なコードの種類と伴奏について学ぶ | ①②常時活動 ③④コード伴奏について理解する | |
| | 6 | ①と②は継続して行う③④コードとカデンツについて学ぶ | ①②常時活動 ③④コード伴奏とカデンツについて理解を深める | |
| | 7 | 同上 | ①②常時活動 ③④コード進行を理解し、コードを使って伴奏づくり | グループ演習 |
| 内 | 8 | ③音楽理論(コード伴奏) ④ハ・ヘ・ト長調のカデンツ・伴奏づくり | ③④カデンツの使い方・コード進行の基礎を理解し、簡単な曲をコードを使って伴奏する | |
| | 9 | ①手遊び・弾き歌い・コード伴奏 ②合唱 ④リミット活動の実践 | ③④幼児のリミット活動の実践 | グループ演習 |
| | 10 | 同上 | ③④幼児のリミット活動の実践 | |
| | 11 | 同上 | ③④ リミット活動実践例を紹介しあう | |
| 容 | 12 | 同上 | ③④リミット活動実践例まとめ | |
| | 13 | ①②は継続して行う③創作ミュージカルの | ④創作ミュージカル制作にむけて(DVD鑑賞) | |
| | 14 | | ④ミュージカル制作にむけて | |
| | 15 | | ④ミュージカル制作にむけて(各係活動計画) | |

| | 回数 | 授業内容 | 各授業のねらい | 備考 |
|---|----|--|--|-------------------------|
| 教 | 16 | 後期オリエンテーション ①定例演習(手遊び・リリック・弾き歌い) ②合唱③音楽理論 ④演習 | 後期の予定 ①音楽に合わせて体を動かすドリル活動(当番と先生で) ②③発声・音程・コードネーム ④創作ミュージカルの確認 | 毎時間 当番がリリックを 提案する |
| | 17 | ①定例演習②合唱 ④演習 | ①②常時活動 ④幼児向けの合奏曲の練習 | グループ演習 |
| | 18 | 同上 | 同上 | |
| | 19 | 同上 | ①②常時活動 ④幼児向けの合奏曲の発表 | |
| 育 | 20 | ③音楽理論(コード伴奏) ④マイナーコードの転回・伴奏づくり | ③マイナーコードを含めた伴奏の作り方 ④マイナーコードの使い方を理解し、伴奏をつくる | グループ演習 |
| | 21 | ③音楽理論(コード伴奏) ④伴奏け | ③④マイナーコードが含まれる指定された曲への 伴奏づけ | |
| | 22 | ①定例演習(手遊び・リリック・弾き歌い・伴奏) ②合唱③音楽理論(移調) | ①常時活動 ②合唱活動を通して、楽曲のアナリーゼの仕方を 学ぶ③コード伴奏の復習と移調の仕方 ④ミュージカルDVD鑑賞 | |
| 内 | 23 | 同上 | ①常時活動(2つの調で伴奏する) ③合唱活動を通して、ハーモニーの美しさを表現する ④ミュージカルDVD鑑賞 | |
| | 24 | 同上 | ①推薦曲のコード伴奏 ③合唱活動を通して、表現を高めるため の技能を理解し、表現を高めあい、合唱の楽しさを感じる ④ ミュージカル台本読み合わせ | |
| | 25 | ③音楽基礎理論のまとめ | ③コードネーム・楽典の基礎に関するまとめ | |
| | 26 | 楽典基礎理論のまとめ | ③コードネーム・楽典の基礎の確認 ④ミュージカルの練習を通して、表現を高めあい、表現 の楽しさを感じる | |
| | 27 | 室公演にむけてミュージカルの練習 | ④ミュージカルの練習を通して、表現を高めあい、表現 の楽しさを感じる | 1月10日 室公演 |
| 容 | 28 | 室公演の振り返りと辰野オペレッタ公演、卒音発 表にむけて | ④ミュージカルの練習を通して、表現を高めあい、 表現の楽しさを感じる | |
| | 29 | 同上 | ④ミュージカル発表を通して、子どもたちの 反応から表現の楽しさを感じる | |
| | 30 | 同上 | 音楽表現Ⅱのまとめ | 2月2日辰野オペレッタ 2月22日卒音 |

| 教科目名 | 単位数 | 総時間数 | 授業形態 | 必修・選択別 | 開講学年 | 開講時期 | 担当講師名 |
|-------|-----|------|------|--------|------|------|----------------------------|
| 音楽表現Ⅲ | 2 | 60 | 演習 | 選択必修 | 1 | 通年 | 浅原佐貴子、伊藤綾音、杉林幸泉、千葉早苗、松浦亜紀子 |

【授業の概要】
 幼児教育者に必要な器楽(ピアノ)の基礎を、各自の進度に応じて、少人数のグループ及び個人レッスンにおいて学びます。課題の予習・復習が必要です。
 ○ピアノと歌唱の基礎的な表現技能の習得
 ○表現技能の応用と創造(各自の進度に応じて)
 ○保育で使用する主な楽曲の習得

【学習到達目標】
 1 幼児の曲の音階や和音の変化を理解して、保育の中で歌われる生活の歌の「弾き歌い」ができるようにする。
 2 保育に必要な演奏技術を身につけ、子どもの歌、リズム遊び等に必要な伴奏ができるようになる。

【成績評価方法】
 1 ピアノ演奏実技試験
 2 弾き歌い実技試験
 3 授業態度
 4 出席状況

【テキスト(教科書)・参考図書】
 1 テキスト(教科書)
 バイエルピアノ教則本 こどものうた200 日本童謡唱歌全集 進度に応じた曲集を紹介
 2 参考図書
 最新・幼児の音楽教育

【実務経験】

| | 回数 | 授業内容 | 各授業のねらい | 備考 |
|----|------------------|-----------------------|--|----------------------------|
| | 教 育 内 容 | 1 | オリエンテーション ①実力判定レッスン | 音楽表現Ⅲのねらい 学習の進め方などを理解する |
| 2 | | ①課題練習曲 ②弾き歌い(童謡) | ①各自の進度に応じた技能の習得 ②日本童謡唱歌全集・こどものうた200より弾き歌い | 各レッスン室 |
| 3 | | 同上 | 同上 | |
| 4 | | 同上 | 同上 | |
| 5 | | ①課題練習曲 ②弾き歌い(発声指導) | ①各自の進度に応じた技能の習得 ②各自の発声の仕方を見直し、技能の向上を図る | |
| 6 | | ①課題練習曲 ②弾き歌い(童謡) | ①各自の進度に応じた技能の習得 ②日本童謡唱歌全集・こどものうた200より弾き歌い | |
| 7 | | 同上 | 同上 | |
| 8 | | 同上 | 同上 | |
| 9 | | 同上 | 同上 | |
| 10 | | 同上 | 同上 | |
| 11 | | 同上 | 同上 | |
| 12 | | 前期試験リハーサル | ①②前期試験に向けての演奏技術・演奏マナーのリハーサルを行う | |
| 13 | | 前期試験リハーサル | 同上 | |
| 14 | | 前期実技試験 | 自由曲(暗譜)、歌の伴奏を演奏する | 音楽室 |
| 15 | | 前期実技試験の振り返り・後期課題 | 後期の学習に向けての課題を確認する | |

| | 回数 | 授業内容 | 各授業のねらい | 備考 |
|---|----|----------------------------------|--|--------|
| 教 | 16 | ①課題練習曲 ②弾き歌い(童謡) ③コード・カデンツの習得 | ①各自の進度に応じた技能の習得 ②日本童謡唱歌全集・こどものうた200より弾き歌い ③コード・カデンツのドリル(ハ長調) | 各レッスン室 |
| | 17 | 同上 | 同上 ③コード・カデンツのドリル(ハ長調) | |
| | 18 | 同上 | 同上 ③コード・カデンツのドリル(ヘ長調) | |
| | 19 | 同上 | 同上 ③コード・カデンツのドリル(ヘ長調) | |
| | 20 | 同上 | 同上 ③連弾への取り組み(各自の進度に応じて) | |
| 育 | 21 | 同上 | 同上 | |
| | 22 | 同上 | 同上 | |
| | 23 | 同上(後期試験課題曲の選曲) | 同上 ③コード・カデンツのドリル(ト長調) | |
| | 24 | 同上 | 同上 ③コード・カデンツのドリル(ト長調) | |
| | 25 | 同上 | 同上 ③復習 | |
| 容 | 26 | 同上 | 同上 ③復習 | |
| | 27 | 試験リハーサル | ①②後期試験に向けての演奏技術・演奏マナーのリハーサルを行う | |
| | 28 | 試験リハーサル | 同上 | |
| | 29 | 後期実技試験 | 自由曲(暗譜)、弾き歌いを演奏する | 音楽室 |
| | 30 | 後期実技試験の振り返りと1年のまとめ 来年度の課題 | 自由曲・弾き歌いそれぞれ課題をいただき、 技能の向上に取り組む | |

| 教科目名 | 単位数 | 総時間数 | 授業形態 | 必修・選択別 | 開講学年 | 開講時期 | 担当講師名 |
|-------|-----|------|------|--------|------|------|----------------------------|
| 音楽表現Ⅳ | 2 | 60 | 演習 | 選択必修 | 2 | 通年 | 浅原佐貴子、伊藤綾音、杉林幸泉、千葉早苗、松浦亜紀子 |

【授業の概要】
 幼児教育者に必要な器楽(ピアノ)の基礎を、各自の進度に応じて、少人数のグループ及び個人レッスンにおいて学びます。課題の予習・復習が必要です。
 ○ピアノと歌唱の基礎的な表現技能の習得
 ○表現技能の応用と創造(連弾・伴奏づけ)
 ○保育で使用する主な楽曲の習得

【学習到達目標】
 1 幼児の曲の音階や和音の変化を理解して、保育の中で歌われる生活の歌の「弾き歌い」ができるようにする。
 2 保育に必要な演奏技術を身につけ、現場のニーズに即応するために、子どもの歌、リズム遊び等に豊かな表現ができるようにする。

【成績評価方法】
 1 ピアノ演奏実技試験
 2 弾き歌い実技試験
 3 授業態度
 4 出席状況

【テキスト(教科書)・参考図書】
 1 テキスト(教科書)
 バイエルピアノ教則本 こどものうた200 日本童謡唱歌全集 進度に応じた曲集を紹介
 2 参考図書
 最新・幼児の音楽教育

【実務経験】

| | 回数 | 授業内容 | 各授業のねらい | | 備考 |
|----|----|-------------------------|--|---|--------|
| | | | 教 | 育 | |
| 内容 | 1 | オリエンテーション ①課題練習曲 | ①音楽表現Ⅲ終了時の課題レッスン | | 各レッスン室 |
| | 2 | ①課題練習曲 ②弾き歌い(童謡) | ①各自の進度に応じた技能の習得 ②日本童謡唱歌全集・こどものうた200より弾き歌い | | |
| | 3 | 同上 | 同上 | | |
| | 4 | 同上 | 同上 | | |
| | 5 | 同上 | 同上 | | |
| | 6 | 同上 | 同上 | | |
| | 7 | 同上 | 同上 | | |
| | 8 | 同上 | ①各自の進度に応じた技能の習得 ②日本童謡唱歌全集・こどものうた200より弾き歌い ③コード・カデンツのドリル(ハ長調・ヘ長調・ト長調) | | |
| | 9 | 同上 | 同上 | | |
| | 10 | ①課題練習曲 仕上げ ②弾き歌い(童謡) | ①各自の進度に応じた技能の習得 ②日本童謡唱歌全集・こどものうた200より弾き歌い | | |
| | 11 | 同上 | 同上 | | |
| | 12 | 前期試験リハーサル | ①②前期試験に向けての演奏技術・演奏マナーのリハーサルを行う | | |
| | 13 | 前期試験リハーサル | 同上 | | |
| | 14 | 前期実技試験 | 自由曲(暗譜)、弾き歌いを演奏する | | 音楽室 |
| | 15 | 前期実技試験の振り返り・後期課題 | 後期の学習に向けての課題を確認する | | |

| | 回数 | 授業内容 | 各授業のねらい | 備考 |
|---|----|-------------------------------------|--|--------|
| 教 | 16 | ①課題練習曲 ②弾き歌い(童謡) ③コード・カデンツの習得 | ①各自の進度に応じた技能の習得 ②日本童謡唱歌全集・こどものうた200より弾き歌い | 各レッスン室 |
| | 17 | 同上 | 同上 ③連弾への取り組み(各自の進度に応じて) | |
| | 18 | 同上 | 同上 | |
| | 19 | 同上 | 同上 | |
| | 20 | 同上(後期試験課題曲の選曲) | 同上 | |
| 育 | 21 | 同上 | 同上 | |
| | 22 | 同上 | 同上 | |
| | 23 | 同上 | 同上 | |
| | 24 | 同上 | 同上 | |
| | 25 | 同上 | 同上 ③カデンツの復習 | |
| 内 | 26 | 同上 | 同上 ③カデンツの復習 | |
| | 27 | 試験リハーサル | ①②後期試験に向けての演奏技術・演奏マナーのリハーサルを行う | |
| | 28 | 試験リハーサル | 同上 | |
| | 29 | 後期実技試験 | 自由曲(暗譜)、弾き歌いを演奏する | 音楽室 |
| | 30 | 後期実技試験の振り返りと1年のまとめ | 各自の学習の振り返りと、現場で演奏する心構えを確認する | |

| 教科目名 | 単位数 | 総時間数 | 授業形態 | 必修・選択別 | 開講学年 | 開講時期 | 担当講師名 |
|--------|-----|------|------|--------|--------|----------|----------------------|
| 保育実践演習 | 2 | 60 | 演習 | 必修 | 1 2 | 後期 前期 | 伊藤 千枝 木澤 千波 平林 英理 |

【授業の概要】
 年間を通じて、日常かつ継続的にふくしだい保育園で演習を行い、その結果及びこれまでの学習内容を踏まえ、総合的に学びを深めます。保育計画の立案、活動準備、保育実践、実践後の振り返りから、保育士として必要な知識と技術、倫理観等を習得し、自己の課題や保育現場に求められること等について、探求します。

【学習到達目標】
 1、養護と教育の関連性を踏まえ、実際に保育の展開をすることで、保育現場における総合的な判断力や倫理観の習得等、仲間と共に振り返り、改善策を導き出す。
 2、自らの体験や、仲間との情報共有から、保育士や保育現場、社会等から求められることは何か、多様な視点から考察する力を習得する。
 3、上記を踏まえ、自己課題を明確化し、保育の実践に際して必要な資質、能力を定着させる。

【成績評価方法】
 1 演習評価 2 課題・記録物の提出状況

【テキスト(教科書)・参考図書】
 1 テキスト(教科書)
 幼稚園・保育所実習ハンドブック、保育所保育指針解説書
 2 参考図書
 実習おまかせBOOK、実習の手引き(本校独自資料)

【実務経験】
 伊藤: 児童相談所、福祉事務所、障がい児、者施設での勤務経験あり。
 木澤: 保育所、障がい児施設、児童心理治療施設での勤務経験あり。
 平林: 保育所、福祉事務所、障がい児施設での勤務経験あり。

| | 回数 | 授業内容 | 各授業のねらい | 備考 |
|--------|--------|---|--|--------------------------|
| | 教 育 | 1 | ガイダンス 保育の計画・保育の内容について | 演習の内容、事前準備、演習報告について理解する。 |
| 2 | | 指導案の作成について 保育の記録について | 指導案、保育記録の方法等について、理解する。 | |
| 3 | | 12グループ編成で演習 各グループ、計画準備、演習、振り返り、グループワーク実施 | 子どもの姿を捉え、保育内容を考える 子どもとの関わり、自他の保育、チームの協働から、考察の視点を幅広く考える。 | |
| 4 | | | | |
| 5 | | | | |
| 6 | | | | |
| 7 | | | | |
| 8 | | | | |
| 9 | | | | |
| 10 | | | | |
| 11 | | | | |
| 12 | | | | |
| 13 | | | | |
| 14 | | | | |
| | | 15 | 演習報告、まとめ | 演習を振り返り、自身の課題と改善点を明確にする。 |
| 内 容 | 16 | ガイダンス 保育の計画・保育の内容について | 実際の子どもの姿、養護と教育を一体的に捉えたねらいの設定、活動の進め方、予想される子どもの姿、必要な援助や配慮について考える。 子どもの主体性や生活の継続性を重視した保育を展開し、幅広く考察する力を身につける。 自己を客観視し、他者の意見を取り入れながら、チームとしての保育力を高める。 保育に必要な総合的な判断力、倫理観を再認識し、保育現場における課題や自己課題や改善策を明確化する。 | 2年生前期 16～30回 |
| | 17 | 指導案の作成について | | |
| | 18 | 保育の記録について | | |
| | 19 | 演習準備 | | |
| | 20 | 8グループ編成で演習 各グループ、計画準備、演習、振り返り、グループワーク実施 | | |
| | 21 | | | |
| | 22 | | | |
| | 23 | | | |
| | 24 | | | |
| | 25 | | | |
| 26 | | | | |
| 27 | | | | |
| | 29 | 演習報告、まとめ | | |
| | 30 | | | |

| 教科目名 | 単位数 | 総時間数 | 授業形態 | 必修・選択別 | 開講学年 | 開講時期 | 担当講師名 |
|------------|-----|--------|------|--------|------|------|-------|
| 保育実習Ⅱ(保育所) | 2 | 80時間以上 | 実習 | 選択必修 | 2 | 前期 | 平林 英理 |

【授業の概要】
 既習の教科目や保育実習Ⅰでの実習の内容及び自らの進路選択等をふまえて実習先を選定し、具体的な実践を通して、保育の基本原理や社会的役割を学ぶ。また、保育の計画－実践－省察－評価を実践し理解することで、自身の課題を明確にする。

- 【学習到達目標】**
1. 保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める。
 2. 子どもの観察や関わり視点の視点を明確にすることを通して保育の理解を深める。
 3. 既習の教科目や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び子育て支援について総合的に学ぶ。
 4. 保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について、実際に取り組み、理解を深める。
 5. 保育士の業務内容や職業倫理について、具体的な実践に結びつけて理解する。
 6. 保育士としての自己の課題を明確化する。

【成績評価方法】
 1 実習施設評価 2 実習指導(巡回時)評価 3 実習のまとめ(レポート)

【テキスト(教科書)・参考図書】
 1 テキスト(教科書)
 これからの時代の保育養成・実習ガイド(中央法規)
 2 参考図書
 実習の手引き(本校独自資料)

【実務経験】
 保育所、福祉事務所、障がい児施設での勤務経験あり。

| | 授業内容 | 各授業のねらい | 備考 |
|------------------|---|---|----|
| 教 育 内 容 | <内容> 1. 保育所の役割や機能の具体的展開 (1) 養護と教育が一体となって行われる保育 (2) 保育所の社会的役割と責任 2. 観察に基づく保育の理解 (1) 子どもの心身の状態や活動の観察 (2) 保育士等の援助や関わり (3) 保育所の生活の流れや展開の把握 3. 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携 (1) 環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育の理解 (2) 入所している子どもの保護者に対する子育て支援及び地域の保護者等に対する子育て支援 (3) 関係機関や地域社会との連携・協働 4. 指導計画の作成、実践、観察、記録、評価 (1) 全体的な計画に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解 (2) 作成した指導計画に基づく保育の実践と評価 5. 保育士の業務と職業倫理 (1) 多様な保育の展開と保育士の業務 (2) 多様な保育の展開と保育士の職業倫理 6. 自己の課題の明確化 * 詳細については「保育実習指導Ⅱ」で説明 * 実習期間中に、本校保育学科専任教員が実習先保育所等を訪問し、学生の実習状況の確認、並びに学生の実習に関する不安等に対応する。 | 各教科で修得した知識や技能の内容と「保育所実習Ⅰ」における保育現場での学びをもとに実習を進めていく。実習では実践を通して保育所の役割や機能について理解するとともに、保育内容の理解につなげる。 この実習は、保育士を目指す者が保育所において実習を行い、保育所保育士の役割と職務について、実践現場での体験を通して理解し、保育士としての自己課題を明確にする実習として位置づける。 本校が指定した期間内に、1単位40時間の保育所実習を行う。実習施設については、キャリア選択を踏まえて履修者自身が選定する。 実習の内容は参加実習、部分実習、責任実習を中心に行う。実習内容は左記のとおりである。 | |

| 教科目名 | 単位数 | 総時間数 | 授業形態 | 必修・選択別 | 開講学年 | 開講時期 | 担当講師名 |
|-----------|-----|--------|------|--------|------|------|-------|
| 保育実習Ⅲ(施設) | 2 | 80時間以上 | 実習 | 選択必修 | 2 | 前期 | 伊藤 千枝 |

【授業の概要】
 既習の教科や保育実習Ⅰでの実習体験を生かし、児童福祉施設及び社会福祉施設等での子どもや障がい者への援助内容や方法について実践を通して学び、子どもや障がい者とのかかわりを深め、そこで働く保育士の業務内容や職業倫理について学ぶ。

【学習到達目標】
 1. 既習の教科目や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、児童福祉施設等(保育所以外)の役割と機能について実践を通して理解する。
 2. 家庭と地域の生活実態にふれて、児童家庭福祉及び社会的養護、障がい児(者)支援に対する理解をもとに、保護者支援・家庭支援のための知識、技術、判断力を習得する。
 3. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。
 4. 保育士としての自己の課題を理解する。

【成績評価方法】
 1 実習園評価 2 実習指導(巡回時)評価 3 実習のまとめ(レポート)

【テキスト(教科書)・参考図書】
 1 テキスト(教科書)
 これからの時代の保育養成・実習ガイド(中央法規)
 2 参考図書
 「実習の手引き」 本校独自資料

【実務経験】
 児童相談所、福祉事務所、障がい児、者施設での勤務経験あり。

| | 授業内容 | 各授業のねらい | 備考 |
|------------------|--|---|--|
| 教 育 内 容 | <p><内容></p> <p>1. 児童福祉施設等(保育所以外)の役割と機能</p> <p>2. 施設における支援の実際 (1) 受容し、共感する態度 (2) 個人差や生活環境に伴う子どものニーズの把握と子ども理解 (3) 個別支援計画の作成と実践 (4) 子どもの家族への支援と対応 (5) 多様な専門職との連携 (6) 地域社会との連携</p> <p>3. 保育士の多様な業務と職業倫理</p> <p>4. 保育士としての自己課題の明確化</p> <p>* 事前訪問時にて施設内の見学や、概要及び支援計画等の確認を行う。 * 観察実習時は、保育士の職務内容、利用児者の様子及び環境構成の確認等を行う。</p> <p>* 詳細については「保育実習指導Ⅲ」の中で説明する。 * 実習期間中に、本校保育学科専任教員が実習施設を訪問し、学生の実習状況並びに学生の実習に関する不安等に対応する。</p> | <p>保育実習Ⅲでは、各教科で修得した知識や技能の内容と「保育実習Ⅰ」における社会福祉施設の現場でどのように活用すべきかを施設の生活に参加し、支援の実際を確認しながら学んでいく。また、利用者の状況と課題を確認しながらどのような支援が展開されているかを確認する。</p> <p>この実習では、保育士を目指す者が社会福祉施設において実習を行い、施設保育士の役割と職務について実践現場での体験を通して理解するための実習として位置づける。</p> <p>保育実習Ⅲは、本校が指定した期間内に1単位40時間の実習を行う。 実習施設については履修者の進路等を踏まえ、自ら選択していくが、実習先と実習期間の調整が難しい場合は、希望が叶うとは限らない。</p> <p>* 利用する子どもや利用者の最善の利益を優先した実習が実施できるようにしっかりと準備をして望むこと。</p> | <p>感染症(新型コロナウイルス、インフルエンザ)対策を講じ、実習に臨む。 基本的事項 マスクの着用、手洗い、手指消毒、健康チェック、抗原抗体検査 ※実習先のガイドライン変更により変わる場合もある。</p> |

| 教科目名 | 単位数 | 総時間数 | 授業形態 | 必修・選択別 | 開講学年 | 開講時期 | 担当講師名 |
|---------|-----|------|------|--------|------|------|-------|
| 保育実習指導Ⅱ | 1 | 30 | 演習 | 選択必修 | 2 | 通年 | 平林 英理 |

【授業の概要】
 既習の教科目や実習・演習の内容をもとに、指導計画案の作成・保育材の準備・実践等を協力して行う。終了後は意見交換及び活動内容等について評価を行う。実習の振り返りまでを通して、自己の課題を明確にしておく。

【学習到達目標】
 1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する。
 2. 実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。
 3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して理解する。
 4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。
 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。

【成績評価方法】
 1 出席状況・授業態度 2 実習のまとめ・・・内容及び構成、見やすさ、プレゼンテーションの状況
 3 課題へ取り組み状況

【テキスト(教科書)・参考図書】
 1 テキスト(教科書)
 幼稚園・保育所実習ハンドブック、保育所保育指針解説書
 2 参考図書
 実習おまかせBOOK、実習の手引き(本校独自資料)

【実務経験】
 保育所、福祉事務所、障がい児施設での勤務経験あり。

| | 回数 | 授業内容 | 各授業のねらい | 備考 | |
|----|------------------|-----------------|--|------------------------|--|
| | 教 育 内 容 | 1 | 授業内容ガイダンス | 保育実習Ⅱの全体像の理解及び目標設定 | |
| 2 | | 保育士の専門性と職業倫理の理解 | 実習に際してふまえるべき事項として理解し、実習後の振り返りにつなげる。 | | |
| 3 | | 保育活動の計画と準備 | 指導計画作成、活動の実践、観察、記録及び自己評価等について実際に取り組み、理解を深める。 | | |
| 4 | | 保育活動の実践① | | | |
| 5 | | 保育活動の実践② | | | |
| 6 | | 保育活動の実践③ | | | |
| 7 | | 保育活動の実践④ | | | |
| 8 | | 保育活動の実践⑤ | | | |
| 9 | | 保育活動の実践⑥ | | | |
| 10 | | 実習前学習 | | 実習に向けて、既習内容や留意事項等の最終確認 | |
| 11 | | | | | |
| 12 | | 保育実習Ⅱのまとめ(事後学習) | 実習の振り返りや意見交換 報告会の資料・お礼状の作成等 | | |
| 13 | | | | | |
| 14 | | 実習報告会 | 報告会を通して、自己課題を明確にする。 | | |
| 15 | | | | | |

| 教科目名 | 単位数 | 総時間数 | 授業形態 | 必修・選択別 | 開講学年 | 開講時期 | 担当講師名 |
|---------|-----|------|------|--------|------|------|-------|
| 保育実習指導Ⅲ | 1 | 30 | 演習 | 選択必修 | 2 | 通年 | 伊藤 千枝 |

【授業の概要】
 観察実習からより実践型の実習になることから、実習先で実践できる保育活動をグループごとに考案し、共有します。
 指導計画または、活動計画の作成、準備などを学びます。
 様々な保育活動の実践により、受け手側の理解や仕手側の配慮などより実習時に対応できる内容を考えます。

- 【学習到達目標】**
1. 施設実習の意義と目的を理解し、施設について総合的に理解する。
 2. 実習や既習の教科の内容及びその関連性を踏まえ、施設における支援の実践力を習得する。
 3. 支援の観察、記録及び自己評価等を踏まえた支援の改善について実践や事例を通して理解する。
 4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。
 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。

- 【成績評価方法】**
1. 出席状況・授業態度
 2. 実習のまとめ(内容・見易さ・発表態度など総合的に判断)
 3. 課題への取り組み状況

- 【テキスト(教科書)・参考図書】**
- 1 テキスト(教科書)
5訂 福祉施設実習ハンドブック 喜多一憲編
 - 2 参考図書
実習の手引き(本校独自資料)

【実務経験】
 福祉事務所、児童相談所、障がい者・児施設で勤務経験あり。

| | 回数 | 授業内容 | 各授業のねらい | 備考 |
|----|----------|----------------------------------|--|----------------------------------|
| | 教 | 1 | 授業内容ガイダンス | 今後の授業について、理解する。 |
| 2 | | 実習施設について | 実習施設の種類について理解する。 | |
| 3 | | 実習施設について | 実習施設及び入所利用児・者について理解する。 | |
| 4 | | 入所利用・児について | 入所利用児・者について理解する。 | |
| 5 | | 保育士の専門性と職業倫理の理解 | | |
| 育 | 6 | 保育活動の計画と準備 | 実習時に活用できる活動について計画する。 | |
| | 7 | 保育活動の実践① | 1人～数人に分かれ、指導計画作成、活動の実践、観察、記録及び自己評価等について実際に取り組み、理解を深める。 | それぞれの活動に必要な材料や物品等の準備をし、活動の計画をする。 |
| | 8 | 保育活動の実践② | | |
| | 9 | 保育活動の実践③(予備) | | |
| 10 | 実習前再確認事項 | 細菌検査、実習日誌について、ねらいなどの再確認、事前訪問について | | |
| 内 | 11 | 実習前再確認事項 | 実習に向けて、既習内容や留意事項等の最終確認 | |
| | 12 | 保育実習Ⅲのまとめ(事後学習) | ① 実習中の経験や、考えさせられたこと等について意見交換を行う。 ② 実習先の概要、エピソード、自己の課題等を整理してまとめ、報告会の資料を作成。 | |
| | 13 | | | |
| | 14 | 実習報告会 | ① 実習報告会に参加し、自己課題を明確にする。 ② 保育士の業務内容や職業倫理について今後の実践に結びつけて理解する。 | |
| | 15 | | | |